

事業報告及びその附属明細書

2013年度

自 2013年4月1日 至 2014年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（JAFS）のめざすもの

I．基本理念（Vision）

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

II．基本課題（Mission）

1. アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
（特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する）
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成と推進

III．基本目標（Goal）

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

IV．基本活動（Program offered）

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

目次

事業報告				p 1
Ⅰ．開発支援事業				
A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給			p 7
B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上			p 9
	2. 教育設備・環境整備			p 10
	3. HIV/AIDS子ども感染予防			
	4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援			
C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット支援・能力開発			p 12
	2. 保健衛生指導・医療	(1)トイレ建設		
		(2)医療支援		
	4. 提携NGO運営助成			p 13
D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育			p 14
	2. 環境改善・国際グリーンスカウト			p 15
	3. 再生可能エネルギー資源活用・普及			p 16
E. サイクル・エイド	1. サイクル・エイド			p 17
ワークキャンプ・海外プロジェクト視察				p 19
Ⅱ．国際交流事業				
A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援			p 21
	2. 日本語教師派遣			
B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1)アジアネットワークセミナー		p 22
		(2)アジア・フレンドシップ夢基金		
		(3)アジア・ユースサミット		
	2. 国際体験交流(スタディ・ツアーなど)			p 23
資料: 海外提携団体AFSネットワーク				p 24
Ⅲ．災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業				
A. 災害等罹災者支援事業	1. 日本			p 27
	2. フィリピン			
	3. カンボジア			
Ⅳ．普及啓発事業				
A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1)JAFSチャリティーバザール		p 30
		(2)国際理解教育講座		
		(3)インド文化センター講座		
		(4)アジア文化理解講座		
		(5)インターンシッププログラム		p 31
		(6)国際協力ボランティア講座		p 32
		(7)関連プログラム／その他団体協力		
	2. 地区活動	(1)エリア世話人会・全体地区世話人会		p 33
		(2)地区世話人一覧		p 33
		(3)第1エリア		p 34
		(4)第2エリア		
		(5)第3エリア		p 35
		(6)第4エリア		
		(7)第5エリア		p 36
		(8)第6エリア		p 37
		(9)第7エリア		
		(10)第8エリア		p 38
		(11)第9、第10エリア		
	3. 広報	(1)アジアネット		p 39
		(2)JAFSプラザ		
(3)ホームページ/メールマガジン			p 40	
4. プロジェクト支援	各ファミリーグループ・支援会			
5. 関連市民活動	(1)関西ナショナル・トラスト協会			p 44
	(2)グリーンベイOSAKA			p 45
	(3)日本を良くする会			
B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)	(1)土と水と緑の学校			p 47
	(2)美山 土と水と緑の自然学校			p 48
	(3)各部会活動			
	(4)ウォーカソン			p 49
Ⅴ．運営管理				
A. 社員総会				p 51
B. 役員一覧				
C. 理事会				p 53
D. 常置委員会				
事業報告の附属明細書				p 54

2013年度 事業報告

2013年度は本会にとっては公益社団法人としての2年目であり、国内外に於いて地に足の着いた公益性のある事業の実施することにより、広く市民に本会活動の認知度を上げることを第一とした。併せて、新たに加わったルール等を、より多くの方々に理解していただくよう広報に留意し、啓発活動に活用した。国内にて本会の活動促進を担う地区世話人の方々には理解が広まり、公益性のある全国規模における活動が推進出来た。

開発支援事業に関しては従来通り「水」、「子ども」、「貧困対策」、「環境」及び「サイクル・エイド」の5事業を実施した。経済不況にもかかわらず前年度に近い多くの支援を実施することができた。資金的支援のみならず啓発・普及に尽力してくださった個人、グループ及び法人の皆様には感謝の気持ちで一杯である。

国際交流事業に関しては、各国提携団体の活動評価及び実践の共有化、及び次世代の人材育成に関するユースサミット等を実施することが出来たが、恒例のアジア国際ネットワークセミナーは現地の諸般の事情により実施できなかった。なお資金面におけるサポート体制が経済事情により引き続き厳しいため、サポート体制の見直しが急務である。

災害等の罹災者支援事業に関しては、2011年度から行ってきた宮城県南三陸町歌津の直接的な被災者災害復興支援は終了したため、スタディツアーなどふれあいを主とする側面からの支援を行った。一方2013年度11月発生のフィリピンの大型台風「ハイエン」の被災地区に対する緊急及び復興支援に注力した。特に緊急支援に於いては1万人以上の被災者の対する物資配布を行い、生活改善をサポートした。

普及啓発活動に関しては、従来の活動が中心であったが、特にインターネットの活用による広報の充実については、まだまだ課題があり、継続課題として残った。一方若者を中心とする各種グリーンスカウト活動は発展・充実の方向にあると言える。2013年度の活動の詳細は以下のとおりである。

I. 公益目的事業 1 開発支援事業

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給を目指した井戸建設支援事業 -

1. 井戸・飲料水供給

2013年度はアジア6カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、フィリピン、ミャンマー）の農村地域36ヶ所に飲料水のための井戸及びパイプライン55基を完成させ、安全な飲料水を含む、生活用水を確保することができた。

昨年度課題となった代替水源の確保に関しては、現在も様々な国際事例のケーススタディを検証しており、未だに具体策は出ていないのが非常に残念であるが、多くの地域において当初の目的である安全と衛生の確保、子どもたちの教育への改善は達成された。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業

経済的貧困のために、教育の恩恵を受けることが出来ない子どもたちへ、初等教育の機会を得るための支援事業を行った。教育里親制度（教育資金の提供）を通じ昨年度同様、アジア5ヶ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の児童332名の教育支援を行なった。

本事業の主である「アジア里親の会」の支援をへて卒業していった子ども達が、大学・職業訓練学校進学をへて会社に就職するなど教育支援を通じたキャリア向上が成果として出ている。

2. 教育設備・環境整備

2013年度は、ネパールにおいて小学校の校舎の増設3教室を実施し。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

引き続き、タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県の2県のHIV/AIDSの児童及びその家族5世帯の支援を行った。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

(1) 栄養改善（ネパール）

2013 年度も引き続き、ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と、就学前クラスの子ども達への給食支援を実施した。併せて、栄養学習を上記学校のみならず本会のかかわりのある小学校 6 校の子どもたちを対象に実施。栄養知識の習得のための教材を学校に配布する共に環境セミナーの際にも指導を継続実施している。

(2) ストリートチルドレンの保護（フィリピン）

路上生活から解放された元ストリートチルドレンの子どもたちが学校教育から立ち遅れないように就学から卒業までを支援すると同時に、環境教育を通したリーダーシップトレーニングによる意識啓発、劣悪な生活環境からトラウマを抱える子どもたちのメンタルケアを実施した。

C.『貧困対策事業』 - 自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導 -

1. マイクロクレジット支援・能力開発

2013 年度は、インド、ネパール、カンボジア、バングラデシュ、フィリピンにおける農村の人々の収入改善のための支援を行った。2011 年度からスタートした、ミャンマーのカチン州における内戦孤児のための居住を兼ねた職業訓練施設（子ども村）に関しては、ようやくすべての支援金が集まり、建設を着工させることができた。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

ネパールにて、農村の人々の衛生改善のためのトイレ 10 基を建設した。トイレがなかったために大変不衛生な環境であったが、バイオガスプラント設置と同時にトイレ併設を勧める事により農村の人々の衛生改善に貢献することができた。

(2) 医療支援

2013 年度は、中国新疆ウイグル自治区のアナディアル病院に呼吸器を寄贈機材した。ネパールにおいては、無医村におけるヘルスキャンプ（臨時診療）を行い、診察と薬の配布により農村部の女性の健康改善とエンパワメントを通した、地域医療の改善に努めた。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド（RUDYA、BSVIA、HDSI）、カンボジア（KAFFS）、スリランカ（SARVODAYA）の運営支援と活動強化を行った。本会の活動している国々は、未だに社会保障制度が充実されない。その中で、本会の提携団体の高齢化に伴う定年退職者が出てきた。ローンなども抱え窮状の中、職場を離れざるをえなくなり、現在、彼らにサポートを継続すべきが課題としてあがっている。貧困層の人たちを支えながら、自らが窮状になるのは、非常に残念である。

D.『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

フィリピン（1,950 本）、ネパール（1,990 本）インドネシア（5,000 本）、カンボジア（3,000 本）において合計 11,940 本の植林を実施した。2013 年度初めてインドネシアの北スラヴェシ州のマナド市郊外のバトゥアンガス山の麓に植林を実施した。初めてだったために村の人たちのみの参加であったが、活動に参加した地元の小学校の先生が今後は子ども達を参加させ、環境保全と協働の意味を伝えたいと約束してくれた。

2. 環境改善・市民による環境保全活動（国際グリーンスカウト運動）

地球環境保全戦略の一環として 1986 年に本会提唱の環境保全市民運動（通称、グリーンスカウト運動）は、本会の現地提携団体を中心に様々な環境における啓発活動が行われている。2013 年度

も継続して、インド、ネパール、フィリピン、タイにおいて環境保全啓発活動が実施された。毎年3月に実施されるタイ、ナン県での有機農業体験では、地元や都心部（チェンマイ、バンコク）の若者だけでなく、インドやフィリピンからの自主的参加者も増加している。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいてバイオガスプラント事業の名の下に、年々増加する燃料としての木材資源の消費を抑えるため、及び健康上の理由（煙による諸種の弊害、例、眼病の防止等）からバイオガス利用を各家庭に奨励している。薪以外に生活燃料を持たない貧農家族への共同利用奨励事業としている。2014年度は、10基のバイオガスプラントを設置することが出来、それと同時にしたその後の使用状況確認や現状把握を行うと同時に方向性の確認をすることが出来た。

E. サイクル・エコイド事業

大阪府内の放置自転車の有効利用の一環として、中古自転車を必要としているアジアの開発途上地域に寄贈する事業。本年度は、タイのチェンマイ、ナンの両県に701台、自転車が配布された。タイ・チェンマイ県においては、本自転車寄贈地域をサイクル・エコイド市として銘々し、ナン県においては、昨年度に引き続きサイクルラリーを実施した。両県の環境保全の普及啓発に大きく寄与している。

この他、各事業に関連して、ワークキャンプ（インドネシア、カンボジア、ネパール、フィリピン）を実施。各諸事業に伴い海外視察が実施された。

II. 公益目的事業 2 国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワークを担う各国各部会の職員の研修、養成のために、奨学金支援を行っている。2013年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）にて実施されているコミュニティ・デベロップメント・コースにバングラデシュ1名、フィリピン1名（フィリピン）が研修を行った。

2. 日本語教師派遣

日本語を通して、日本とアジアの交流を図るために日本語教師を派遣。2013年度も継続して日本語教師の中島和子氏をインドネシア、バリ島のディアナブラ大学に派遣した。

B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

2013年度の第23回アジア国際ネットワークセミナーは、カンボジアにおいて本年2月に実施予定であったが、現地の諸般の事情により実施を延期した。2014年7月に開催予定である。

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2013年度も継続してインド、ナグプール県のスラム街にあるチャイルドアカデミーに通う子どもたちの給食支援を行った。

(3) アジア・ユースサミット

地球の未来に向かって持続可能な地域社会作りを通して様々な社会的課題解決に向けて実践する若者を育成するために、日本（大阪府、奈良県）にて、第3回アジア・ユースサミットを開催した。「環境とモラル ～いのちを守る食の行方、現在から未来へ～」をテーマとし、日本を含むアジア13カ国の高校生が大阪、奈良にて一同に会した（引率教師を含め高校生91名、実行委員、ボランティア29名、計120名）テーマについて各参加者が居住する地域の事前調査を行い、食や農業の問題について調べたことをプレゼンテーションにまとめ、発表した。そこから見いだされた共通の課題や解決方法をグループディスカッションにて話し合い、多様な文化圏の高校生達が

集まり共通項が見いだすことが困難な状況においてもあきらめず、最終的にアクションプラン決定し、採択した。参加した高校生達の今後の地域への貢献が期待される。

2. 国際体験交流（スタディツアー等）

2013 度は、インド（1 回）、カンボジア（1 回）、中国（1 回）、ネパール（1 回）の計 4 回の国際スタディツアーを実施。

III. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) 東日本大震災災害復興支援事業

今年度も、復興スタディツアーとして、みなさん館や味噌工房を訪れて、地元の方々とふれあい、地元のものを食べ、復興に向けて歩み出そうとしている状況また、震災当時の様子、活動内容をスタディツアー「南三陸を訪れる復興支援スタディツアー」を実施した。（仙台市、南三陸町、気仙沼市、一関市、松島市）2013 年度は、計 11 回実施した。企業の社会貢献事業として関心を集めることにも成功した。

(2) カンボジア洪水水害支援

2013 年 9 月後半から 10 月初等にかけてカンボジアの全国規模で発生した大降雨による洪水・水害に対して、本会は、カンボジアのシェムリアップ州にて食料及び生活物資の支援を行った。（特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）ジャパン・プラットフォーム助成事業）

(3) フィリピン台風「ハイエン」緊急・復興支援事業

2013 年 11 月 8 日に発生した観測史上最大の台風「ハイエン」がフィリピンのビシヤヤ諸島を襲った。2013 年 11 月 25 日から 12 月 5 日まで北サマル州 2 町、レイテ州 5 町、アンティーケ州 5 町の約 12,290 人の貧困層の被災者を対象に食料、生活物資、家材などの物資配布を行ない、被災者の生活改善を行った。（特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）ジャパン・プラットフォーム助成事業及び JAFS 支援資金、一部本会資金）

その後、被災者の持続的な生活復興を目指して、2014 年 1 月に復興支援の事業案件形成のためにアンティーケ州の視察を行い、漁業を主収入として行っていた被災者でボートやエンジン、漁網などを失った人々に対して、支援を行うことで決定し、2014 年 3 月から漁師の支援事業を行った。

アンティーケ州パンダン町、ティビアオ町、バルバザ町の漁師及び漁業組合に対して、ボート、エンジン、漁網、釣糸、その他漁業機材の供与を行った。（特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）ジャパン・プラットフォーム助成事業及び JAFS 支援資金、一部本会資金）

その他、現在、政府や自治体から支援を受けることができなかった 10 世帯に対して仮設住居（シェルター建設）や教会の復旧支援事業を行っている。2014 年 8 月完成予定

IV. 公益目的事業 4 普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民が参加できるよう、色々な形のチャリティプログラムを展開している。2013 年度も恒例の JAFS チャリティバザールを年 2 回実施。その他、それぞれ各地域や各ファミリーグループの支援趣旨のもと、チャリティコンサートが 13 回実施され、本会の活動への参加と賛同、理解を得ることができた

(2) 国際理解教育講座

国際理解教育講座として、学校及び団体へ講義を行った。2013 度は大学や労働組合への講義の依頼が増え、より幅広い社会層の人たちへ講義を行うことができた。(講師派遣のべ 16 か所、参加生徒・団体員数 1,576 名) その他、学校の委託により授業を受け入れ、国際理解に対する講義を実施した (3 校 33 名)

(3) アジア文化理解講座

2013 年度も引き続き、アジア家庭料理教室を中心に料理を通した、アジアの文化理解に努めた。毎月アジアの様々な国の「家庭」料理を取り上げ、アジア 13 地域 18 回の教室を行い、のべ 326 名の参加があった。

(4) インターンシップ制度

2013 年度は、神戸学院大学、甲南女子大学、大阪経済大学から、3 校 17 名のインターンシップ生を受け入れた。本会へのインターンシップでは、事務局内の活動及び国内の様々なプログラム参加、海外プロジェクト啓発活動など様々な実習を通して、ボランティアそして国際協力について学び事後活動につながる研修を行った。

(5) 関連プログラム

関係団体と連携の中、理事、評議員、幹事、講師、運営委員として協力。来場者 16,500 名あった関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」には実行委員会メンバーとして実施に協力した。緊急支援においては、カンボジアの水害支援、フィリピンの台風支援において特定非営利活動法人 (認定 NPO 法人) ジャパン・プラットフォームの助成および事業に関する連携を行った。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちに広めていくために本年度も全国各地域にいる本会地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカソン、環境活動を基本プログラムとして啓発活動が行われた。

3. 広報

本会の活動機関誌「アジアネット」を 4 回発行し、本会の事業報告及び海外の情報などを提供した。「JAFS プラザ」に関しては、4 回発行により本会の国内における啓発活動の紹介を行った。インターネット広報に関してはフェイスブックが定着化し、フェイスブックから活動参加が増えた。しかし、依然として広報活動の弱さが残っている。

(1) 機関誌

アジアネットを 4 回発行、JAFS プラザ 4 回 4 誌発行し、本会の海外及び国内におけるプロジェクト、プログラムの報告、情報を提供することができた。

(2) インターネット

ホームページを定期的更新及びブログなども定着化してきたが、昨年度課題として上がっていた新ホームページ作成に関しては、本会のホームページにウィルスが混入するなどの問題が起こり、改変には至らなかった。未だにクレジットカード導入など費用対効果について検証の必要があり、導入には至らなかった。フェイスブックに関しては、順調に閲覧者も増え、本会の各活動の支援者増に繋がった。

4. プロジェクト支援 (支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど 19 グループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。

5. 関連市民活動

関西ナショナルトラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の元、活動が活発に行われた。グリーンベイ OSAKA の植樹活動に関しては、社団法人国土緑化推進機構の助成を受け実施された。

B. 環境保全・啓発教育事業

環境保全・教育を中心に次世代の人材育成のために下記の事業が実施された。東日本大震災、フィリピン台風「ハイエン」などの大災害があり、本年度から子ども達の意識の中にも「防災」「減災」の意識を向上させようと、防災関連のプログラムが積極的に導入された。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は、開催 30 周年を迎えた。タイ、フィリピン、インドネシアから環境保全を推進している代表者を招聘し、パネルディスカッションを含めた周年記念事業を行った。「第 30 回土と水と緑の学校」として、小学生をはじめとした 79 名が参加し、土水緑海の日の各授業を通して、気づき、学び、実行する機会を設けることができた。30 年を迎え、本当に多くの人たちに支えられていることを実感しながら、本プログラムを実施することができた。

(2) 美山「土と水と緑の自然学校」開催

2013 年度も引き続き、美山「土と水と緑の自然学校」京都府南丹市美山町にて開催した。「農村と都市の交流」を基本とし、自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通して自然と人、人とコミュニティの繋がりを体感し、学ぶ実践型のプログラムを実施した。昨年、美山町は、京都水害にて被災地となったこともあり、本年度はプログラムの中に防災と人々との繋がりを基本としたプログラム作りができた。また、サイクル・エイド事業の受け入れ団体であるタイのチェンマイ県のメイジョー大学の学生もプログラムに加わり、上記のプログラムを含めた国際交流だけでなく、学生達に環境や防災や過疎の課題などについても実体験させるプログラム作りができた。合計 62 名が参加した。

(3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト（“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する）活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。現在、国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方が 3 地域に部会を持つ。GS 大阪は毎週水曜日に例会を開催、エコキャンプや美山、新宮の土と水と緑の学校、環境プログラムの開催、リーダー研修を行うと同時に、里親として教育支援を行った。GS 吹田は、毎月 1 回例会と吹田市の糸田川清掃活動を継続、及び恒例の無人島キャンプを実施した。GS 寝屋川・枚方は、第 2 エリアの「北河内緑とふれあう会」のメンバーとしてその活動に参加した。北河内緑とふれあう会は、その活動が認められ、枚方市から表彰された。

(4) ウォーカソン

“地球の水と緑を守る”ためのウォーカソン（基本的には地区活動の一環として実施）を 4 ヶ所で開催し、のべ 72 名が参加した。ボランティアの方々が地域の名所を探し、企画を立案し、実行するこの自然とチャリティを組み合わせたプログラムは、今後も新たな名所へと皆様を導いてくれるでしょう。

V. 運営管理

本年度も、理事会（4 回）、常任理事会（6 回）が開催され、事業、運営の課題について話し合われた。それに伴い、各常置委員会も開催された。

以上を以て 2013 年度の活動事業報告の概要としたい。

I. 開発支援事業

I. 開発支援事業

I-A. 水事業

1. 井戸・飲料水供給

(2014年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2013年度完成	累積
インド	3	457
インドネシア	-	44
カンボジア	21	338
スリランカ	5	90
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	16	153
バングラデシュ	0	143
パキスタン	-	8
フィリピン	6	360
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	4	19
ラオス	0	21
合計	55	1,723

●インド

RUDYA マハラシュトラ州ガッチロリ県	3基
ポンプ式井戸	3基

ダンノーラ地区チャベッラ村
ダンノーラ地区パルクダ村
チャモーシ地区ナバガオン村

●カンボジア

KAFS タケオ州	21基
露天式井戸	21基

ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村(4)
ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラバインサラ村
トレアン郡ブランベイマム地区ダムナックレアチア村 (2)
トレアン郡ブランベイマム地区ダンカウ村 (2)
トレアン郡ブランベイマム地区トラバンベン村(2)
トレアン郡ブレイスルック地区サンガ村
トレアン郡クバブ地区クダイ・ルン村
トレアン郡クバブ地区サモールクロム村 (2)
トレアン郡クバブ地区ドーンブー村 (2)
トレアン郡クバブ地区パングロール村 (2)
トレアン郡ロネアム地区トラペアン・ロンペアック村
トレアン郡ロネアム地区トラパンチュレイ村

●スリランカ

SARVODAYA スリランカ全域	5基
露天式井戸	5基

アンパーラ県ウバダマ地区ボルワッテ村
ケガレ県ワカポーラ地区リニバカドゥワ村
マータレー県ウィルガムワ地区マラカ村
モナラガ県ブッタラ地区ペティガムワラ村
ラトナープラ県ティボトゥワウワ村

●ネパール

AFS ネパール ネパール全域	14基
露天式井戸	1基

バグマティ県バクタプル郡スダール村 (1)

ポンプ式井戸	3基
--------	----

ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村 (2)
ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガール (1)

簡易水道付集水タンク式井戸	1基
---------------	----

バグマティ県バクタプル郡スダール村

簡易水道付パイプライン式井戸	11基
----------------	-----

バグマティ県シンドウパルチョーク郡ボテシバ村 (9)
バグマティ県ラリトプル郡ボディケル村 (2)

●フィリピン

KALIPI ヌエバエシハ州	5基
ポンプ式井戸	5基

サンレオナルド町タンボ村バラン
カピアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック 3
カピアオ町サンフェルナンド・ノルテ村ブロック 1
ハエン町パマクパカン村 パマクパカン小学校
ハエン町マラワ村 マラワ小学校

AFS-Virac, Catanduanes カタンドゥアネス州	1基
----------------------------------	----

簡易水道付きポンプ式井戸	1基
--------------	----

サンアンドレス町ティンバアン村

※第 10 回情報労連東海ブロック協議会のワークキャンプにて実施

●ミャンマー

MAFS	1基
ポンプ式井戸	1基

ヤンゴン市ミョティット町ヤワンタギー村

I. 開発支援事業

サガイン県

露天式井戸	3 基
-------	-----

タムー町モンジャン村
ライシ町モルノイ村
タムー町タムー村孤児院

建設中の井戸	24 基
--------	------

インド	4 基
カンボジア	0 基
スリランカ	2 基
ネパール	3 基
パキスタン	0 基
バングラデシュ	4 基
フィリピン	5 基
ミャンマー	4 基
ラオス	2 基



毎年恒例のイオン労連のカンボジアワークキャンプ
地元のイオンの従業員の方々も多く参加するようになった。



インド、ガッチロリ県の井戸



井戸の水で手を洗う子どもたち(フィリピン)



水をくむ村の女性たち(カンボジア、タケオ州)



完成した井戸の前で(ネパール)

I. 開発支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

経済的理由のために教育を受けることができないという子どもたちの減少と就学による子ども達の教育向上をめざし、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子ども達を里子、日本側支援者は教育里親としてサポートするプロジェクトを実施している。

近年、教育が子ども達に与える影響を親たちも理解し、農村部においても就学率の向上が見られている。しかしながら、南アジア(インド、ネパール、バングラデシュ)においての女子への教育への理解が未だに不足しており、就学率、識字率共々未だに低い位置を占め、家庭教育等女子が得る教育の重要性と効果に対する理解は不足している状況が未だある。

また学校に通っていたとしても教材不足、教育の質の向上、教員不足、両親の理解など様々な課題まだ多くあり、コミュニティを更に巻き込んだ学校教育の確立を更に行っていく必要がある。その上、高学年になると男子、女子とも働き手として就職を優先する動きも多く卒業することなく自主退学を招いている。これは本会が支援している全5カ国に見られる傾向である。

本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども(里子)を紹介し、手紙などによる相互交流を行った。2013年度は332人の里子を支援、里親が心の支えにもなり里子たちの成績を良好な方向に導くことにも繋がっている。

アジア里親の会 里親決定状況 (2014年3月現在)

国名	2013年度里子数	里子累計数
インド	85	249
カンボジア	77	145
ネパール	122	192
バングラデシュ	30	183
フィリピン	18	19
合計	332	788

●インド

BSVIA JAFS 教育支援事業 9名

【カルナータカ州ビジャプール地区ブルナプール村】

日印友好学園コスモニケタンの教職員給料、制服、教材費などの運営費を支援。

SSH JAFS 教育支援事業 47名

【タミルナードゥ州ディンディガル県 27名
ナマカル県 20名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援(累計70名)。

RUDYA JAFS 教育支援事業 29名

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区バダトラ村】

日印友好学園バダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちの中でも反政府活動により近辺の小学校が封鎖され、遠くから通えないために、寮生活を余儀なくされた生徒の寮生活と継続して就学できるための支援を実施。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 77名

【タケオ州、コンボンチュナン州、カンダール州】

コンボンチュナン州とタケオ州そしてブノンペン近郊のカンダール州にある小学校の運営支援、及び、子どもたちへの教材や年一度の校外学習遠足の実施の支援。里子を対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal 教育支援事業 25名

【ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援。

ヤシャシュビ学園 44名

【カトマンズ郡シタパイラ村】

ヤシャシュビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を目指した支援。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 53名

【カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子どもへの学費支援と学校運営支援。

●バングラデシュ

BDP JAFS 教育支援事業 30名

【ダッカ・ガジプール県】

バングラデシュでは小学校卒業以上の就学費負担が高額のため個人負担費が多くなるために中学校以上の就学率が下がっている。就学意欲のある子どもが中等～高等教育を受けることができるよう就学支援を実施。

●フィリピン

ASI JAFS 教育支援事業 18名

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

国鉄沿いのスラム街で生活をしている子どもたち。強制移住政策後の不安定な生活の中、小学校での教育を受けることができるように学費や教材などを支援。劣悪な生活環境からトラウマになっている子どもたちの精神的なケアも同時に行っている。

I. 開発支援事業

※本里子支援の支援者広報を長年実施くださる毎日新聞の“あなたの愛の手を～海を越えて～掲載 500 回” 記念座談会が、2013 年 8 月 6 日 500 回を迎えた日に毎日新聞大阪本社で開催され、本会よりも参加。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2014 年 3 月現在)

国名	2013 年度建設数	校舎棟累計数
インド	-	20
インドネシア	-	2
カンボジア	-	41
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	(1) 教室増設	20
パキスタン	-	2
フィリピン	-	7
ベトナム	-	3
合計	1	106

※学校数及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●ネパール

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援 3 教室

【バグマティ県カトマンズ郡チュニケル村ナウリンセカンダリースクール】

ナウリンセカンダリースクールは、学校の敷地が大変狭く教室不足であっても校舎を増やすことが出来ない。そのため長年 3 階の増設を検討していた。この度その増設基準が許可され、3 階部 6 教室の内 3 教室の完成に協力し学校環境の改善を行った。

(2) 教育環境整備

●インド

RUDYA 日印友好学園パダトラ小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区パダトラ村】

マハラシュトラ州政府認可による行政助成私立学校を目指している日印友好学園パダトラ小学校。2013 年 6 月にマハラシュトラ州教育省担当官がパダトラ小学校を視察。同州の少数民族対策としての優先助成校の一つとして登録された。今後の運営継続状況や設備投資などを見ながら優先順位を向上させていく予定である。

●フィリピン

AFS-Pandan パトリアデイクアセンター屋根修繕

【アンティーク州パンダン町パトリア村】

フィリピンでは、デイクアセンターでの就学が小学校入学の条件になっている。しかしこのパトリアデイクアセンターでは、長年の使用により、白アリによる駆逐、雨漏りする屋根と老朽化が進んでいた。新たに屋根と天井のを張り替え、白アリ駆除をすることで、生徒たちが安心して学習できる環

境を整備した。

※第 10 回フィリピン京都暁星高校ワークキャンプで実施。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

●インド

SSH HIV/AIDS 支援

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県は非識字層の移動労働者が多く、出稼ぎ先の都心部にて性交渉を持ち、HIV/AIDS に感染し、地元にて拡大させている。本会は HIV/AIDS の影響下及び感染している世帯を対象に支援を行っている。支援内容としては、抗 HIV 薬購入支援、栄養価の高い食材の購入、HIV/AIDS の啓発教育などを行っている。2013 年度も 5 世帯の支援を実施した。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●ネパール

ラリット福祉センター JAFS 教育支援事業

【バグマティ県ラリットプル地区】

孤児や母子家庭の子どもを対象に教育の機会を提供している社会福祉団体の学校。教師 1 名の給料と運営費を支援。自力で就学することが困難な子どもたちが、学ぶ機会を得られるように支援を行った。

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ネパールの農村では経済状況が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。健康状態や成長が改善されることを目的として小学校給食支援と栄養指導及び学習を実施。

農村部では、炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分な状態である。ピトゥリ村スリーサンディ小学校の約 200 名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援を実施(19 年間)。学校のプログラムに組み込まれるようになり、子どもの栄養不足を補うだけでなく、様々な教育的要素を兼ねている。政府から給食支援が実施され 3 年目となったが対象は小学 1 年生より 5 年生の子ども達である上、栄養的な食事が与えられる予算内容ではなく 1 品のおやつ程度の提供にとどまっている。そのため継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と、就学前クラスの子どもの給食支援が不可欠である。併せて実施している栄養学習は上記学校のみにならず本会のかかわりのある小学校 6 校の子どもたち(学校名は環境プログラム報告参照)を対象に実施。栄養知識の習得のための教材を学校に配布する共に環境セミナーの際にも指導を継続実施している。

I. 開発支援事業

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町バリバラン】

2004 年度より支援を行ってきたマニラ市内の国鉄の線路沿いに形成されたスラム街は、フィリピン政府の政策により、2007 年の全国総選挙に伴い一斉に強制撤去された。南に約 60km、車で 2 時間半のカビテ州ダスマリネス町への移転を余儀なくされた。アジア里親の会のプロジェクトとして子どもたちの教育を支援、学用品の支給、学校の授業に立ち遅れてしまう子どもたちには補助的な教育指導も行なった。

また、環境教育のキャンプやユースリーダートレーニングのプログラム、家庭環境が原因で起こる精神的なトラウマのケアも実施。リーダーシップトレーニングにおいては、15 歳以上の若者を各地から集め、リーダーシップに関する一貫したトレーニングを行い、そこで認証を受けたリーダーが各自の村に戻りさらに年下の小学・高校生に伝えていく方法を取り、トレーニングを受けたメンバーが増加していつている。また、環境保全に関する勉強会と清掃活動も行い、環境保全の意識向上に繋がっている。

※第 1 回フィリピン UA ゼンセン宮城県支部視察で交流。



フィリピンのストリートチルドレン
移転地にて交流プログラム

●ミャンマー

KBC カチン州の内戦孤児の施設建設支援

【カチン州ミッチーナ】

ミャンマーのカチン州の州都のミッチーナにて、Kachin Baptist Convention (カチン・バプティスト教会)を通して、内戦孤児のための職業及び教育訓練施設建設が開始した。カチン州の内戦により子どもたちが日々の食料や住居に困ることなく、教育や職業訓練を受けられる場として使途される。当初建設地は、カチン州のライザという中国との国境沿いにある場所ですが地雷などが埋められまだまだ子どもたちを受け入れる環境にないことから、安心して教育や職業訓練が出来るミッチーナに場所を移し、建築を開始した



ミャンマー カチン州内戦孤児のための施設
建設の無事を祈る



ネパールの学校給食



バダトラ小学校の子どもたち（独立記念日を祝したスクール
プログラムにて伝統舞踊を披露）

I. 開発支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

●インド

RUDYA 女性の自助グループ (SHG) 支援事業

【マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区 ラクシミーボリ村】

2007 年度に本会の支援により設立された貧困層の個人小規模店舗や女性の自助グループへのマイクロファイナンスのために設立された「アダーシュ協同組合銀行」。本銀行を中心にラクシミーボリ村及び周辺 3 か村の村の人たち及び、女性の自助グループ (Self Help Group-SHG-) による事業創出のための少額貸付を行った。返済及び貯蓄は 98% 台と高いが、基本的な貯蓄と貸付資本が少ないために、貸付対象者が伸び悩んでいる。

●ネパール

AFS- Nepal 牛の銀行事業

【バグマティ県バクタプル郡スダール村】

農村部においてバイオガスの設置の要望が高くなっている一方、牛または水牛を家畜として持たない世帯はバイオガスを設置することができないことが課題であった為 3 年前より乳牛の購入資金を貸し出し実施した返済金回収を実施。減収で返済できない農家が续出、返済調整を行っている。

●フィリピン

AFS-UMD 協同組合設立と運営事業

【ソルソゴン州マトノグ町】

ニッパヤシを原料とした屋根材を主な収入源としているこの地域では、材料が買いたたかれ、適正価格での取引がなされておらず貧富の格差を生み出している。このような状況を解決するために、協同組合を設立し、適正な価格で取引が出来るよう住民へのエンパワメントをおこなった。また、その協同組合を自らの力で運営できるよう経営研修などを実施した。それと同時に、適正な貸付の仕組みをもつマイクロクレジットをはじめ、共生可能な事業を行うことで貧困層が基本的な生活を確保できる社会づくりを目指した。

ココナッツヤシの繊維を原料としたロープ、ネットづくりは、行政より活動が認められ、フィリピン国内の土砂崩れの防止に使われるために定期的な買い上げがはじまっている。

3. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2013 年 3 月現在)

国名	2012 年度完成	累積
インド	-	1194
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	10	880

タイ	-	9
ラオス	-	1
合計	10	2369

●ネパール

AFS-Nepal 農村トイレ建設支援

(バイオガスプラント設置付随事業) 10 基

【バグマティ県バクタプル郡スダール村】

ネパールでは、バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレを設置を始める農家が多くなっている。本会のバイオガス設置対象としているスダール村では、バクタプル郡の中でも 2 番目に村の世帯すべてにトイレ設置を目指す村として郡に登録し、トイレ設置及び衛生観念が改善されている。今年度はバイオガスプラント 10 基の設置に対し 10 世帯にてトイレの設置が行われた。

(2) 医療支援

●中華人民共和国

アナディアル病院支援事業

【新疆ウイグル自治区カシュガル】

アナディアル病院は、距離や経済的理由から今まで医療を受けることができなかった農村地域の貧しい人々の医療環境改善を目的に 2007 年に設立。近隣に加え、遠方からの患者が増えてきたために、病棟を増設。今年度は人工呼吸器と診察時に必要な医療機器類を寄贈し、より多くの患者に対応できるようになった。2013 年度の中国の中で私立病院としての優秀な病院として表彰を受けることができた。

山間部の農村にはまだ医療が届いておらず、病気や怪我をしても、そういった地域から病院まで来るのは困難な方が多くいる。継続した活動が必要とされている。

●ネパール

AFS-Nepal 地域医療向上支援事業

【バグマティ県ラリトプル郡ボディケル村】

女性の農村部における状況改善をめざし、無医村地域の医療支援として、産婦人科専門医師による医療支援及び健康向上のためのヘルスキャンプ(巡回医療)を実施。ネパールの多くは山間地であり、女性が住居地域より外にでることが少ない上に、女性特有の病気に関して夫や家族の理解が少なく、発症していても放置されたままである場合が少なくない。そのため女性が住居地域で産婦人科診察を受けることが出来ることは、女性の健康を守る事、家庭を守る事においては女性のエンパワメントにもつながっていくことになる。受診者 200 名。診療と薬配布を実施。膣炎、子宮脱等病気が多くみられ、中には子宮ガンや手術が必要なほど悪化している患者もいた。総合診療においては、ビタミン不足による体力低下や抵抗力低下が多くみられた。今後も無医村地域における定期的実施により村の状況を把握すると同時に賢信の必要性がある。

I. 開発支援事業

4. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークの各国部会（NGO）の活動を強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

RUDYA（インド）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

HDSI（インド）

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助した。

GSI（インド）

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるために基本機関として設立された Green Scout India その代表を務めるブラザーシン氏の給与及び事務所諸経費を本会にて負担した。

KAFS（カンボジア）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA（スリランカ）

サルボダヤの組織改革に伴い、2012 年度まで支援をしてきた CCBU が解体。そこで副事務局長を務めてきたクナシリ氏がサルボダヤの礼拝センターに勤めることとなり、彼が礼拝センターで実施している女性のエンパワメント事業にかかる人件費を負担。2015 年 3 月に活動内容を見直し、継続の有無を検討する予定である。



RUDYA の SHG のメンバーであり、協同組合銀行からのマイクロローンにて小麦粉の販売を始めた。



ネパール ヘルスキャンプの診察に押し寄せた村人たち



ネパール助産師への講義 大谷タカコ助産師

寄贈した人工呼吸器
(中国新疆ウイグル自治区)



スリランカ エンパワメントのワークショップ

I. 開発支援事業

I-D. 環境事業

植林や代替エネルギー資源を供給することは、環境を守ることだけでなく、村の人たちの生産性を向上させ、大きな生活改善となっている。また、大規模な自然災害が続く中、自然保護の啓発は、地元の人たちの生活と密着化しており、人々の意識に大きな影響を与えている。

アジアの農村などで実施されている自然に対する様々な取り組みからの学びは多く、今後、私たち日本の社会においても有効に活かすヒントがあると思う。

1. 植林・水源涵養林養育

(1) 植林

(2014年3月現在)

国名	2013年度植林	累積
インド	-	712,205
インドネシア	5,000	196,960
カンボジア	3,000	12,000
スリランカ	-	400
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	1,990	291,427
パキスタン	-	4,560
フィリピン	1,950	88,165
バングラデシュ	-	26,500
	11,940	2,457,422

●インドネシア

Hosanna 植林事業 5,000本

【北スラウェシ州マナド市バトゥアンガス山自然保護区域】

2013年度より、北スラウェシ州の森林省との協力によりスタートした植林事業。バトゥアンガス山には、生物多様性の地域であり希少動物など生息しているが、近年の気候変動と森林伐採により、生物多様性の減少が懸念されている。原生林であるジャボン、センパカ、エゴニー、センゴンの木々を5haの土地に5,000本植樹し、森林の再生に努めた。本事業終了後は、森林省によりモニタリングが行われたが、気候変動に伴う水不足と山火事が飛び火し、植樹地の一部が消失した。現在、森林省管理の下、山火事後の地帯の作業が実施されており、補植を実施する予定である。

●カンボジア

KAFS 植林事業 3,000本

【タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区】

カンボジアで実施されているマイクロクレジットからの村落組合への利息収入をコミュニティサービスとして利用する事業の一

環として実施された植林事業。国道から農村へと入る道路のほとんどは土で出来ており、雨期時に土壌が流出してしまい、交通インフラを悪化させている。道路沿いに成長の早いアカシアの木を植林することにより、土壌流出を減少させている。本年度は3000本の植林を実施した。

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 1,540本

【ルンビニ県ノールバラシ郡ピトゥリ村】

環境を守るため又地域開発運営の為に村民たちによるコミュニティフォレスト活動を継続実施している中、一級河川のナラヤニ川の岸が河の流れと地形の関係でけずられている状況が深刻化し始めた。そのために護岸を行うための工事と植林を行うこととし、日本より会員であり専門家の佐々木実氏に現地にて指導してもらい、植林活動を行った。ビニールシートで岸の表面を覆いその上や周りにねをしっかりとのはらラタンを植え土を保護する事を目指した植林を実施した。併せて、森の拡大のために植林を行い、森と農村の人々のつながりをさらに重視した植林活動を目指しておくことを目標として、実施していくこととした。

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 400本

【バグマティ県バクタプール郡スダール村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、引き続き実施。FUG(フォレストユーザーズグループ)はコミュニティフォレストとして地域の森作りを以前より実施しているが、この地域は一種類の木(松)の植林により森の植生が異常な状況になっている。森再生を目的に村人と地域の学生及び環境プログラム参加の他村の学生も加わり植林を実施。平野地域の子どもの山間地の植林を経験できる学習の機会ともなった。ネパール自生のロブシー、葉草として用いられるドゥピサツラ、ビレンドラフル、クツミロ、アマラ、コプール等を400本の植樹した。

※夏季現地小学生環境セミナーにて植林実施

AFS-Nepal 育苗センター及びモデル農園 50本

【ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガル市5地区】

「朝日読者の森」として森林破壊が著しいネパールにて2001年より森作り事業を実施。5年計画の終了後、農村地域に貢献できるセンターづくりと地域の森林面積の復活を目指してJAFSランドと称したエリアにアグロフォレストリーを実施。維持管理と共に、ネパールでの植林活動を広げる為に、今年度はベッコウ（細竹）50本を植樹。各植林プロジェクト地の苗木作りも実施。その他、季節の野菜等を育て販売して農園運営を実施している。モデルケースとなる地域農民との連携による農園づくりを目指し更なる計画を調整中。

●フィリピン

AFS-Pandan パندان水源の森プロジェクト 1050本

【アンティーク州パナイ島パンダン町】

2003年度より開始した水源の森保全プロジェクト。今年度は、

I. 開発支援事業

ランソネス、ランブータン、グヤパノ、アボカド、カラマンシー、マコパ、アティス、サントル、カシュー、ポメロ等の果樹計 1050 本の植林を行なった。これまで植林した木々が成長し、果実をつけ始めた。それにより、これまで材木伐採をしていた地元住民の生活が、果樹を育てて収入源にする形に生活スタイルが移行できてきた。また、地元住民の植林に対する意識が高まり、専門家へ積極的にアドバイスを受け、勉強会を開くなど活発に活動を行っている。成長を早めるために剪定実施し、その努力が果実の実りとなった。また、現地の女性たちによる維持管理の体制ができてきており、月 1 回水源管理グループによる草刈り、苗木の成長の確認が行なわれている。

※第 10 回京都暁星高等学校ワークキャンプで植林実施。

◆AFS-Virac, Catanduanes パロンパネス島水源の森プロジェクト

600 本

【カタンダゥアネス州カラムラン町トイトイ村パロンパネス島】

漁村の島、パロンパネス島。島の 7 割は、焼畑、森林伐採が進み、現在では禿山が広がっている。その影響は表土の侵食、洪水の増加、サンゴ礁の破壊、水不足、海の汚染、魚の減少などとして出てきている。

2007 年にプロジェクトを開始し、植林プロジェクト 8 年目を迎える。アジア社会科学院の社会開発と有機農業の専門家を講師に迎え環有用微生物などについての環境セミナーを開催。その後、植林を実施した。環境保全に対する地元住民の意識向上と協力体制の高まりが感じられた。

今年度は、ココナツ 100 本、ナラ 500 本の計 600 本を植林。
※第 6 回フィリピンパロンパネス国際ワークキャンプにて植林実施

AFS-UMD マングローブ植林プロジェクト

300 本

【ソルソゴン州マトノグ町サンタ・イザベル村】

2012 年度より開始した海岸保全プロジェクト。太平洋に面しているマトノグ町では、台風や大雨のごとに土砂崩れや海岸浸食の被害を受けており、村をつなぐ唯一の道路も浸食の危険性をはらんでいる。

村の広大な干潟に、若者や漁師メンバーが中心となり、住民参加型でマングローブを植林し、将来的な海岸浸食防止網としての成長と、魚やエビといった生態系の復活が期待されている。今後は、マングローブの植林モデル村としてこの活動を広めていくと同時に、同モデル村の観察と、補植を継続する。

2013 年 11 月以降の台風の影響を受け、活着率が低くなった場所に、育てた苗木を 3 本づつまとめて植える方法をとった。種から苗木に一定期間育てることで、高い活着率を目指す。

※フィリピンソルソゴン州マングローブ視察で植林実施。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト (GS) 運動とは「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986 年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFS の海外ネットワークを通じて国際的に 16 ヶ国にて展開。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。
以下は、各国（日本を除く）の活動状況。

●インド

HDSI グリーンスカウト啓発

マハラシュトラ州アムラワティ県にて 2005 年度から継続して実施されているグリーンスカウト運動啓発。本年度も HDSI を中心に地元の学校や HDSI が活動している村落をまわり、環境保全の重要性をビジュアル面(ポスターなど)を通して啓発を行った。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー

6 校

【バクタプル郡スダール村、カブレ郡トクチャ村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

GS 活動を行う小学生対象の環境セミナーを 2 回実施。その 1 回目は 8 月にスダール村にて地元の小学校 2 校とカトマンズ郊外のチュニケル村より 1 校、平野部のピトゥリ村より 3 校の計 6 校の小学生 30 名が集合し、自然エネルギーの一つ、「太陽エネルギー」に関しての働きや仕組みなどを学ぶことにより今後学校へのソーラーパネル導入への第 1 歩とした。同時に滞在している村のコミュニティーフォレストへの植林作業、又各学校の環境活動の成果と今後の目標を発表。隣村の小学校を訪問するとともに参加隣村までの道に落ちているゴミ拾いを行い、ゴミを分別し、多くなっているプラスチックゴミの軽減のためにするべきことなどを話し合った。カリカ小学校 (スダール村 会場校)、マハンカル小学校 (トクチャ村)、スリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校 (以上 3 校ピトゥリ村)、ナウリン小学校 (チュニケル村) 小学生各校 5 名及び教師各校 2 名

2 回目は 12 月にピトゥリ村にて実施、8 月とは逆に山間地の子どもが平野の状況を学ぶと共にピトゥリ村にて 8 月以後どの程度の活動を実施できているかを各学校より発表してもらうと共に、「地球と私たち」という環境紙芝居を教材にし、今後この教材を児童教師共にどのように活用していくかを考え又、これまでの学校清掃の内容と質を高めていくために、それぞれの掃除方法を指導すると共にその方法の意味を説明し理解を促した。同時に日本の雑巾の利点と縫い方を伝授し、ネパールの清掃に欠けている視点を気づくように促した。最終的には学校で行う目標を一つ決めそれぞれの学校に持ち帰り、その目標の提案理由を学校全体でシェアし合い、どのようにその目標に向かって活動を行うかを学校で決めることとし、参加した学生がそれぞれの学校にてリーダーとして活動を実施できるように促した。カリカ小学校 (スダール村)、スリーサンティ小学校 (ピトゥリ村 6 地区・会場校)、ラーズラトナ小学校 (ピトゥリ村 4 地区)、ピトゥリ小学校 (ピトゥリ村 9 地区)、ナウリン小学校 (チュニケル村) 小学生各校 5 名及び教師各校 2 名

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【バクタプル郡スダール村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカル GS づくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。

ピトゥリ村GSは、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して行う。

チュニケル村GSは、地域清掃及びコミュニティーフォレスト活動を通じ地域の環境保全に繋がるとし、子どもたちが毎年 GS として植林

I. 開発支援事業

活動を実施。

スダール村GSは美化活動の取り組みと地域の環境活動への参加としてコミュニティーフォレストにて植林を実施。地域のクラブ的な活動としてリーダー育成をも目指している。

●フィリピン

ASI 環境保全プログラム

【リサール州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町
カピタ州ダスマリネス町パリパラン】

16歳以上のグリーンスカウトメンバーの地域代表（リーダー）20名を対象として、自己能力開発・環境保全セミナーとワークショップを10のカテゴリー別の実施。グリーンスカウト地域代表メンバーはその学んだ内容を地域に持ち帰り、年下の子どもたち平均10名に対し同様のプログラムを実施した。グリーンスカウトの活動の意義・活動が広まった。

2009年にスタッフを1名日本に招へいし、有機農法や有用微生物群（EM菌）についての研修したことをきっかけに、フィリピンでのEM団子（マブハイボール）による環境浄化や、環境に配慮された養鶏、有機農法の勉強会と実践など、多岐にわたる活動に活かしている。フィリピンの行政からも活動が認められ、活動紹介の講演と環境保全プログラムを各地の川沿い・湖畔沿いで実施している。

KALIPI 財団 環境意識啓発

【ヌエバエシハ州サンレオナルド】

1. 年間を通じて、環境に関する世界中の記事をAFSニューズレターとしてAFSメンバーに発信。また併せて、政策提言も行っている。
2. アースデイには、地方行政と学校に呼びかけを行い、温暖化ガスの排出を少しでも少なくするために、1時間の消灯を行った。
3. 地方行政や団体に対して、KALIPI財団が環境についてのコンサルタントの無料提供を行った。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 10基

【バグマティ県】

資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながると同時に、人口増加とともに森林破壊が進み、その歯止めとし薪の代替燃料の確保が急務となっている。農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる）にも大きく寄与している。効果として、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70～90%削減することができ、国土の30%台にまでに減少（以前は70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時にトイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。

・バクタプル郡スダール村 10基

【2013年度 計10基設置 累計1,062基設置】



ネパール 護岸植林指導をする佐々木専門家



ネパールにおける環境教育プログラム(ゴミの分別指導)



ネパール バイオガスプラント

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リデュース・リユース・リサイクルの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府などがメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 701 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の 5 市から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市 200 台、八尾市 200 台、阪南市 101 台、
泉大津市 100 台、大阪市 100 台

これまでの実績として、事業開始以来、アジア、アフリカの 10 ヶ国に合計 27,889 台の自転車を寄贈。

タイ 701 台

今年度はタイの TAFS と AFS-Chiang Mai の 2 団体が受け入れ先として 2013 年 10 月にそれぞれ、175 台と 176 台、2014 年 2 月に 175 台づつ、下記の支援条件の下、それぞれ学校を中心として自転車が贈られた。

◆支援条件：

- 遠方から通学する貧しい学生(2～8 km)
- 貧しい家族を助ける
- 国内の輸送のコストを減じること
- 地球温暖化に対してキャンペーンすること
- 省エネルギーの促進
- 農業組合の活動の活性化、貧農の自立支援
- 自動車またはオートバイで旅行を部分的に自転車で代用

<TAFS>タイ北部・中部

	受益者	数
1	ナン県ターワンパー郡 丘陵地から市内に通学する貧しい学生	35
2	ナン県ウィエンサー郡 貧しい学生と農民	8
3	ナン県 貧しい村人	2
4	ウッタラディット県 貧しい村人	4
5	プレー県 貧しい農民	6
6	チョンブリー県 農業組合	25
7	パヤオ県 農業組合	25
8	ナンランナ大学	60
9	タンマサート大学	40
10	技術大学	50
11	近隣地域の村人	95
総 計		350

学生に送られた自転車は学校で管理され、卒業生から新入生に引き継がれる。本事業を通じ、自転車の有効活用や地球環境保全のキャンペーンがおこなわれ、タイ国内の AFS ネットワークが拡大につながってきている。

<AFS-Chiang Mai>

2013 年 10 月 11 日に大阪港を出港した自転車は、10 月 25 日にバンコク港に到着、トラックに積み替えチェンマイに 10 月 30 日に 176 台贈られた。このサイクル・エイド事業には思いを同じくする数多くのボランティアの手によって支えられおり、安全な自転車を必要な人々の手に届けられ大切に使われるよう、アイデアを出し合いながらセミナー開催等、様々な工夫が考えられている。今回、中心となったチャイワット博士は日頃より青少年育成に尽力され、昨年実施された第 30 回土と水と緑の学校にも参加し、タイの青少年活動にこれから積極的に取り組んでいく予定。メイジョー大学では今回の寄贈を受け、自転車の町としてビジョンをもち、学生を始め次世代が地域や地球全体の環境保全への積極的な取り組みを進めていくことを使命として宣言し、今後も取り組んでいくこととなった。

◆サイクル・エイド関連国内プログラム

● 寝屋川多文化フェスタ

日程：2013 年 5 月 25 日(土) 場所：寝屋川市立市民会館

主催：寝屋川多文化フェスタ実行委員会

<内容>

サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介。
多くの寝屋川市民に自転車の有効活用について周知出来た。

● 泉大津フェニックス野外コンサート

日程：2013 年 8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)、7 日(土)

場所：泉大津フェニックス

主催：泉大津フェニックス夏フェス 13 実行委員会事務局

来場者数：合計 約 48,200 人

<内容>

I. 開発支援事業

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕風町」では、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で、野外コンサートをはじめとした各種イベントが開催されている。今年度は8月31日(土)、9月1日(日)には『RUSH BALL 2013』が、9月7日(土)にはOTODAMA'13～音楽魂～が開催され、多くの音楽ファンを魅了した。コンサート主催者の多大なる協力のもと、会場内のブースでサイクル・エイド事業の活動紹介とチャリティバザーを行い、海上輸送への協力を得ることができた。

◆サイクル・エイド募金箱の設置

再生自転車の海外輸送費を確保するため募金箱を設置し、寄付の呼びかけを行った。

日程:2013年4月1日～2014年3月31日

場所:大阪府パスポートセンター本所

◆大阪家庭裁判所「自転車盗等被害を考える講習会(月例)」に於いて、サイクル・エイド事業の啓発活動を実施。

2013年5月28日、6月25日、7月23日、9月24日、

10月22日、11月26日、12月17日

2014年1月21日、2月20日、3月25日

場所:大阪家庭裁判所

<内容>

自転車盗難に関わった青少年とその家族を対象に、自転車の大切さを伝えるサイクル・エイド事業の啓発活動を実施。月に1回、サイクル・エイド事業で自転車を届けている子どもたちを取り巻く状況や自転車を贈った後の生活の変化を伝えることによって、放置自転車や自転車盗難防止の意識付けとともに、青少年の健全な育成に一助した。

◆国際交流プログラム

【Cycle Aid Bicycles For Children】

自転車をつなぐ日本とアジア 展示&講演会】

<展示>

日時:2013年8月24日(土)～31日(土) 10～16時

場所:サティールホール1F 市民ギャラリー

来場者:429名

<講演会>

日時:2013年8月24日(土) 14～15時

講師:村上公彦(JAFS 専務理事兼事務局長)

参加者:25名

内容:アジアの現状、サイクル・エイド事業について紹介

【タイ家庭料理教室&サイクル・エイド活動報告会】

日時:2013年10月29日(火)18:30～21:30

場所:大阪市男女共同参画センター西部館

講師:秋田ローリ氏

参加者:20名

内容:日本在住のタイ人から家庭料理を学ぶことを通じて、タイの文化や生活を身近に感じ、学ぶ。日本とタイの協力関係としてサイクル・エイド事業について活動報告を実施。

【サイクル・エイド 自転車をつなぐアジアと日本】

日時:2013年3月1日(土)14:00～15:30

場所:官報ビル8F 会議室

講師:ラモン グロバット氏、橋本隆(JAFS 理事)

参加者:11名

内容:日本とフィリピンの架け橋として活躍しているフィリピン人講師講師により、国の文化や生活についての話と日本とフィリピンの協力関係として自転車を寄贈する本事業について活動報告を実施。後の交流茶話会を通して、国際理解・交流が出来た。

自転車の寄贈先であるタイ、チェンマイのメイジョー大学教授と学生(9名)が、2014年3月25日(火)～4月6日(日)来日。国際ボランティアとして、『第2回美山土と水と緑の自然学校』への参加。タイのサイクル・エイドプロジェクトの報告や下記の国際交流プログラムなどを実施した。

【南丹市国際交流プログラム】

日時:2014年3月30日(日)15:00～20:00

場所:南丹市国際交流会館

参加者:25名

協力:南丹市国際交流協会、NPO 法人丹波ネット

内容:タイ文化紹介、サイクル・エイド活動報告、日本文化(お茶席・着物着付け体験)の紹介、地元交流会

【日吉町異文化交流会】

日時:2014年3月31日(月)10:00～16:30

場所:京都府府民の森

参加者:28名

協力:南丹市国際交流協会、NPO 法人丹波ネット

内容:日本古民家体験(料理作り)日タイ文化交流(銭太鼓演奏・体験、タイ舞踊、体験、ムエタイの紹介)、サイクル・エイド活動報告、意見交換

※この事業は競輪の補助を受けて実施しました。



タイ、ナン県に寄贈された自転車(サイクル・エイド事業にて)

ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

本年度は、インドネシアが加わり、4カ国で12回に亘って実施した。延べ233名が参加した。以下、実施日時順による。

1. イオンリテールワーカーズユニオン アセアンワーキング

セミナー(役員及び役員学びの編) (カンボジア、ベトナム)

期 間: 2013年5月10日～5月17日

場 所: タケオ州トリアン郡ロネアム地区ソピー村

ホーチミン市内 VAFS 事務所兼職業訓練工場

参加者: 18名

内 容: 井戸建設、交流、VAFS 訓練所視察及び活動内容講義

2. 第25回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間: 2013年5月21日～5月25日

場 所: タケオ州トリアン郡クバブ地区アンルン村

参加者: 20名

内 容: 井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈

3. 第26回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間: 2013年5月28日～6月1日

場 所: タケオ州トリアン郡クバブ地区サモールクロム村

参加者: 28名

内 容: 井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈、

4. 第3回イオン九州労組・マックスバリュ中部労組

カンボジアワークキャンプ

期 間: 2013年6月4日～2012年6月8日

場 所: タケオ州トリアン郡クバブ地区ドーンパー村

参加者: 20名

内 容: 井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈

5. 第1回イオンリテールワーカーズユニオン

アセアンワーキングセミナー(カンボジア、マレーシア)

期 間: 2013年6月10日～16日

場 所: タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区

ダムナックレアチア村

マレーシア、クアラルンプール市内

参加者: 26名

内 容: 井戸建設、植林、交流、小学校にて文具寄贈、

イオン・ブノンペン、イオン・マレーシア視察

6. 第2回イオンリテールワーカーズユニオン

アセアンワーキングセミナー(インドネシア)

期 間: 2013年7月2日～8日

場 所: ジャカルタ市

北スラヴェシ州マナド市バトゥアンガス山

参加者: 24名

内 容: 植林、エコ観光、交流、イオン・ジャカルタ視察

7. 第10回京都暁星高校ワークキャンプ (フィリピン)

期 間: 2013年9月24日～10月1日

場 所: パナイ島アンティーク州パンダン町

参加者: 18名

内 容: 植林、デイケアセンター修繕、交流

8. 第27回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間: 2013年11月19日～11月23日

場 所: タケオ州トリアン郡ブランベイマム地区ダンカウ村

参加者: 26名

内 容: 井戸建設、交流

9. 第28回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間: 2013年11月26日～11月30日

場 所: タケオ州トリアン郡ドーンケオ郡ソーチャン村

参加者: 28名

内 容: 井戸建設、交流

10. 第43回ネパール国際ワークキャンプ

期 間: 2013年12月27日～2014年1月6日

場 所: ルンビニ県ノールパラシイ郡ピトゥリ村

参加者: 6名

内 容: 環境セミナー、バイオガспラント視察、交流

11. 第10回情報労連東海ブロック協議会

フィリピン・カタンドゥアネスワークキャンプ

期 間: 2013年1月16日～1月20日

場 所: カタンドゥアネス島サンアンドレス町ティンバアン村

参加者: 16名

内 容: 井戸・パイプライン建設、プロジェクト視察、交流

12. 第8回フィリピン・パロンバネス島国際ワークキャンプ

期 間: 2013年3月20日～3月25日

場 所: カタンドゥアネス島

参加者: 3名

内 容: 植林、環境セミナー、プロジェクト視察、交流

2. 海外プロジェクト視察

1. フィリピン、UA ゼンセン宮城県支部 教育支援事業視察

期 間: 2013年4月12日～4月14日

場 所: マニラ市、カビタ州ダスマリネス町パリパラン

派遣者: UA ゼンセン宮城県支部9名、松井聡子

内 容: ストリートチルドレン教育支援プロジェクト視察、交流

2. ネパール プロジェクト視察

期 間: 2013年4月25日～5月5日

場 所: バグワティ県、ノールパラシイ郡ピトゥリ村、チトワン郡、シン

ドゥパルチョーク郡ボテンパ村 等

派遣者: 熱田典子

内 容: 環境事業、飲料水事業、教育支援視察及び調整

3. ネパール プロジェクト視察

期 間: 2013年8月8日～8月19日

場 所: バグマティ県カトマンズ郡、ノールパラシイ郡

派遣者: 熱田典子

内 容: バイオガспラント・児童環境プログラムの実施・植林活動・井戸・アジア里親の会支援校との打ち合わせ

I. 開発支援事業

4. インド プロジェクト視察

期 間:2013年8月28日～9月17日

場 所:マハラシュトラ州ガッチロリ、カルナータカ州ビジャプール等

派遣者:村上公彦

内 容:日印友好学園視察、現地プロジェクト視察

5. ネパール プロジェクト視察及びトレーニング実施

期 間:2013年10月18日～10月28日

場 所:バクタプール郡スダール村、カブレパランチョーク郡トックチャ村、ノールパラシ郡ピトゥリ村、ボカラ

派遣者:熱田典子

内 容:バイオガスパラント及び環境事業視察及び研修実施。
栄養指導トレーニング実施(受託)

6. カンボジア 洪水水害緊急支援事業実施

期 間:2013年10月24日～2013年11月7日

派遣者:横山浩平

場 所:シェムリアップ州アンコールトム郡

内 容:食料及び生活物資配布

7. カンボジア プロジェクト視察

期 間:2013年11月19日～22日

派遣者:村上公彦

場 所:プノンペン、シェムリアップ

内 容:ネットワークセミナー打ち合わせ

8. フィリピン 台風30号(ハイエン)被災者支援活動

期 間:2013年11月22日～12月9日

場 所:マニラ市、サマル島、レイテ島、バナイ島

派遣者:松井聡子

内 容:緊急支援活動(食料、生活物資、屋根資材の配布)
(ジャパン・プラットフォーム助成事業)

9. 中国 香港 ネットワーク会議

期 間:2013年11月27日～30日

派遣者:村上公彦

場 所:香港

内 容:アジアシニアボランティア協議会(ICSV)

10. カンボジア オムロン労組寄贈プロジェクト視察

期 間:2013年12月4日～2013年12月8日

派遣者:オムロン労働組合(2名)、横山浩平

場 所:タケオ州トレン郡、ドーンケオ郡

内 容:井戸建設、少額貸付、教育支援事業視察

11. ネパール 実技指導・プロジェクト視察

期 間:2013年12月18日～2014年1月9日

場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡、バグワティ県

派遣者:佐々木実(12/19-26)、熱田典子

内 容:護岸保全プロジェクト指導・実施、バイオガスパラント及び
環境プログラム実施、教育支援事業視察

12. フィリピン 台風30号(ハイエン)復興支援案件形成調査

期 間:2014年1月2日～8日

場 所:アンティーク州パンダン町、ティビアオ町、バルバザ町

派遣者:横山浩平

内 容:被災地視察及び被災漁師との会合など

13. フィリピン 台風30号(ハイエン)被災者支援活動

期 間:2014年1月12日～1月15日

場 所:アンティーク州

派遣者:松井聡子

内 容:屋根資材を配布した世帯のモニタリング

14. フィリピン 台風30号(ハイエン)復興支援活動

期 間:2014年3月5日～3月30日

場 所:アンティーク州パンダン町、ティビアオ町、バルバザ町

派遣者:横山浩平

内 容:被災漁師支援(ボート、エンジン、漁網など漁業機材支援)
(ジャパン・プラットフォーム助成事業)

15. フィリピン 台風30号(ハイエン)復興支援活動

期 間:2014年3月25日～4月8日

場 所:アンティーク州パンダン町、ティビアオ町、バルバザ町

派遣者:吉田暢子、田中壽美子

内 容:被災漁師支援(ボート、エンジン、漁網など漁業機材支援)
(ジャパン・プラットフォーム助成事業)

16. ネパール ヘルスキャンプ実施・プロジェクト視察

期 間:2014年3月8日～3月18日

場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡、バグワティ県シンド

ウバルチョーク郡、バクタプール郡、

派遣者:熱田典子

内 容:環境プログラム教材贈呈式、地域医療支援事業実施、
バイオガスパラント及び環境プログラム実施

17. フィリピン プロジェクト視察

期 間:2014年3月26日～3月31日

派遣者:京都暁星高校(2名)、松井聡子、他3名

場 所:ソルソゴン州マトノグ町、マニラ

内 容:マングローブ植林及び事業視察、ココナッツ貧困対策
プロジェクト視察、ワークキャンプ打ち合わせ、小学校交流
AFS フィリピン会議

18. フィリピン AFS フィリピン会議及びプロジェクト視察

期 間:2014年3月29日～31日

派遣者:村上公彦

場 所:マニラ

内 容:フィリピンにおける現地提携団体9団体(23名)一同に会し、
各プロジェクトの報告、課題の共有化、今後の協力体制な
どの話し合い。



学校の屋根の修繕ワークキャンプ(フィリピンにて)
(京都暁星高等学校フィリピンワークにて)

Ⅱ. 国際交流事業

Ⅱ. 国際交流事業

Ⅱ－A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金（奨学金等）を支援。

●フィリピン

ASI マニラ 2名

本年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）の国際社会開発夏期コース（2ヶ月間）に以下の2名のAFSメンバーの奨学を支援した。

- フェローズ・アハマド（バングラデシュ）
- ウェナ・ローズ（フィリピン）

2. 海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2013年度は2名の研修生が国内研修150時間以上の終了後、ネパールとインドでそれぞれ3か月間の海外研修を実施。ネパールでは小学校にて教師ボランティアを通しての副教育の指導による情操教育の発展、インドでは現地提携団体の活動を理解しながらアジア里親会の里子の調査及び地域調査などの活動をおこなった。

- ① 研修生氏名：中塚 めぐみ（社会人）
研修先：ネパール（受入：AFS Nepal）
ノールパラシ郡ピトゥリ村 スリーサンティ
小学校／ピトゥリ小学校／ラーズラトナ小学校
カトマンズ郡チュニケル村ナウリンセカンダリー
スクール 等
海外研修期間：2013年10月17日～2014年1月16日
- ② 研修生氏名：小久保 愛海（大学生）
研修先：インド（受入：SSH）
タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県
海外研修期間：2014年3月1日～6月1日（継続中）

3. 日本語教師派遣

日本語を通して日本への理解とアジアと日本とのつながりを深めることを目的として、日本語教師ボランティアの派遣を実施した。本年度は昨年フィリピンに派遣した中島和子氏を要請のあったインドネシア、バリ島のディアナプラ大学に派遣した。

日本語教師名 中島 和子
実施場所 インドネシア、バリ島、ディアナプラ大学
受入提携団体 Hosanna Foundation
実施期間 2012年8月から現在も継続中



環境に関する授業をしているところ
海外ボランティア研修生 中塚めぐみさん



SSHスタッフと村の家庭訪問
海外ボランティア研修生 小久保愛海さん

Ⅱ. 国際交流事業

Ⅱ-B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

2013 年度は、ミャンマーでの開催の予定であったが、受け入れ側の事情によりカンボジアへの変更となったが、大洪水があったため、2014 年 7 月に第 24 回の開催が予定されている。尚、2014 年 7 月開催に向けて、2013 年 11 月に第 24 回ネットワークセミナーの受け入れ準備委員会(委員長 Dr. ピン・ソピア)が発足した。

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金、”アジア・フレンドシップ夢基金”は、2010 年度から、本会が実際に支援している国々の人たちから積極的に集められた。2013 年度も、引き続き日本国外の人々からの基金が集められた。集められた基金は、AFS/ICO のスタッフ 2 名(ブラザーシン(インド)ジーナ・ヤップ(フィリピン)の活動費及び、チャイルドアカデミー(インド、ナグプール)に充てられた。尚、2008 年度に発足されたアジア・フレンドシップ基金委員会(委員長、Dr. ザカライヤ・インド、他国際委員 8 名で構成)は、毎年独自開催を行っていたが、財政的観点から、2013 年度よりアジアネットワークセミナーの開催時に開催することになった。しかし、2013 年度のネットワークセミナーが延期となったため 2013 年度は開催していない。

(3) アジア・ユースサミット

事業名 地球の未来に向かって～持続可能な地域を目指して～
「第 3 回アジア・ユースサミット」

第 3 回テーマ 「環境とモラル～いのちを守る食の行方、
現在から未来へ～」

事業期間 2013 年 8 月 16 日～21 日

事業場所 大阪府立男女共同参画・青少年センター(8/16-17)
奈良市青少年野外活動センター(8/19-21)

事業の目的

「Think Globally, Act Locally(地球レベルで考え、地域で行動する)」を実践できる地域のユースリーダー育成と、アジアにおけるユースの間でのネットワーク構築を目指す

6. 参加者 参加者数 合計 215 名

日本側参加者(引率教師、生徒を含む)	合計 60 名
関西大学第一高等学校(生徒 4 名)、	
大阪府立松原高等学校(教師 1 名、生徒 8 名)	
大阪府立三島高等学校(教師 2 名、生徒 5 名)	
羽衣学園高等学校(教師 1 名、生徒 5 名)	
神戸市立六甲アイランド高等学校(教師 1 名、生徒 6 名)	
関西学院高等部(教師 1 名、生徒 3 名)	
梅花高等学校(生徒 5 名)	
きのくに国際高等専修学校(教師 1 名、生徒 3 名)	

神戸学院大学附属高等学校(教師 1 名、生徒 2 名)

関西外語大学専門学校国際高等課程(生徒 8 名)

大阪府立佐野高等学校(生徒 3 名)

・スタッフ・ボランティア 19 名

●海外参加者 36 名

・各国代表エントリー高校生(大学生) 17 名

・コーディネーター 19 名

(バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、マレーシア、モンゴル、ネパール、パキスタン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナム)

●事業内容

8 月 16 日 (オリエンテーション、プレゼンテーション)

8 月 17 日 (プレゼンテーション、オープニングパーティー)

8 月 18-19 日(フィールド研修、グループディスカッション、
キャンプファイア)

8 月 20 日(アクションプラン採択会議、フェアウェルパーティー)

8 月 21 日(アクションプラン発表、アジア・カルチャーパーフォーマンス大会)

●アクションプラン

1. 農業や有機農業を啓発するポスターを作る。
2. ファーマーズクラブを作り、農業体験や研修を実施する。
3. 生産者と消費者の距離を縮める

非常にシンプルにまとめられたアクションプランではあるが、採択に至るまでには、大きな葛藤があった。農業が主産業である国、農業を完全に他国に依存している国、農業の重要性を認識しながらも自給率が極端に低い国など、それぞれが異なる立場にいたからだ。なぜ、農業や有機農業を啓発しなければいけないかという「溝」が埋まらなかったことから。そのために議論が激論になり決定するまでに多くの時間を要した。つまり、自国の状況の認識と課題、発展への共通の価値観を見出すこと、そして自らがリーダーであるが故に、妥協することが許されない。この「溝」を埋められないことに繋がったと思う。実際にアクションプラン発表の時に「溝」があったことを伝え、発表したことが、今回のアクションプランの重要性に深みを加えたと感じた。

アクションプランの内容においては、シンプルであるが、1 つめのポスター作りによる啓発は、単に有機農業や農業を含めるだけでなく、食や健康、啓発とプレゼンテーションにもあった問題にも活用できるように、全体的な内容を総括したものであると言える。2 つめのファーマーズクラブ作りと農業体験は、自らの農業への実践が他へ伝えるための説得力にも繋がるし、自然にいかに関わるかを自らが体感することでなる気づきが得られるのではないだろうか。3 つ目の生産者と消費者の距離は、上記 1 と 2 の実践を通し、人に伝えることが距離を縮めるための最適な方法論であることがわかる。「溝」があったにも関わらず、最後に共通項を見出し、自らの言葉で発表したアクションプランがここでの大きな成果でもあり、意義であった。リーダーたるものが何かを体感し、証明してみせたものだった。

Ⅱ．国際交流事業

●助成団体

一般財団法人 地球産業文化研究所 愛・地球博成果発展助成事業
公益財団法人 三菱 UFJ 国際財団

●後援名義団体

文部科学省、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、大阪市教育委員、公益財団法人 大阪府国際交流財団

2. 国際体験交流（スタディーツアー等）

アジアにおける本会海外プロジェクト視察やアジアの現状に対して、足を運び実感することを通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。本年度は4ヶ国に4回実施し、述べ28名が参加した。

ネパール・スタディーツアー (ネパール)

期 間：2013年6月15日～ 23日

場 所：カスキ郡／シンドゥバルチョーク郡／カトマンズ郡等
参加者：6名

内 容：ポカラ国立産科病院訪問及び助産師指導、チョータラ国立産科病院訪問及び TBA フォローアップセミナー、カトマンズ国立産科病院見学、チュニケル村ナウリンセカンダリースクールの訪問及び交流、中国との国境タトパニ訪問他、プロジェクト視察、現地の食い初め式参加、自然遺産・世界遺産の見学

兵庫県立国際高等学校スタディーツアー (カンボジア)

期 間：2013年8月26日～ 30日

場 所：タケオ州、プノンペン、シェムリアップなど
参加者：11名

内 容：学校交流、プロジェクト視察、遺産の見学

中国新疆ウイグル自治区スタディーツアー (中国)

期 間：2013年9月20日～9月27日

場 所：ウルムチ、トルファン、カシュガル
参加者：8名

内 容：アナディアル病院支援、文化体験、交流、世界遺産の見学

南インドスタディーツアー (インド)

期 間：2013年11月13日～21日

場 所：カルナータカ州ビジャプール、マハラシュトラ州ガッチロリ

参加者：3名

内 容：コスモニケタン、パダトラ小学校訪問・会合、交流



第3回アジア・ユースサミット（グループディスカッション）



TBA と再会を喜ぶ（ネパールスタディーツアー）



中国新疆ウイグル自治区スタディーツアーにて

海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 64団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
1 インド			
1 BSVIA	P. クンバール	カルナータカ州ビジャプール	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	S.S.ラムテケ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	J.ザカライヤ	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B.セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	D. カシナート	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	T. プラモド	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 SWAMI VIVEKANANDA	D.チャワン	マハラシュトラ州ナグプール	水
9 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州バネシュワール	災害復興
10 AMS	A.P.ポール	タミルナードゥ州マバルワペタイ	水、貧困対策
11 TRDP	マランディ	ビハール州サントル・バルクナ スアマラバティ	水、貧困対策
12 Don Bosco Asyalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
13 Runa	ピーター・ペロ	ナガランド州コヒマ	水
14 AFS-Nagpur	P. ビシャール	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
15 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
16 AFS-Rural Gacchiroli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
17 AFS-Gadchiroli	P. ソンタツケ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
19 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
20 Green Scout India	Br. T. シン	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、環境
21 AFS-Chhattisgarh	S.H.パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
2 インドネシア			
22 HOSANNA	E.サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、
23 AFS-Aceh	タンタウィ	アチェ州	環境、災害復興
24 Talenta Foundation	バンバン	ジョグジャカルタ州	水、災害復興
25 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
3 韓国			
26 公州大学校産業科学大学	ユン・ジュン・サン	忠清南道礼山	国際交流
4 カンボジア			
27 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
5 シンガポール			
28 AF- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
6 スリランカ			
29 SARVODAYA	A.T.アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

7	タイ			
30	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
31	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
32	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
33	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
34	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
35	AFS-Lampang	スラポン・ブクディ	ランパン	環境
36	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流
8	中国			
37	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
38	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
39	AFS Uighur	ユスフ・エム・デオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流
9	ネパール			
40	HARD	S.マナダール	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
41	AFS-Nepal(Green Scout Nepal)	ラジャン・M・マツラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
10	パキスタン			
42	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
11	バングラデシュ			
43	AFS-Bangladesh	S. チョウドリー	チャンドラゴーナ	水、貧困対策
44	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
45	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
46	BDP	アルバート・マラカル	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
47	AFS-BIWM	ムンスール・ラーマン	ダッカ	水、子ども、災害復興
12	フィリピン			
48	KALIPi	ジミー・クナナン	ヌエバエシハ州サンフェルナンド	水、貧困対策、環境、災害復興
49	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタ	アンティーク州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
50	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
51	AFS-Manila	ジュアン・グロバット	マニラ市	国際交流
52	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
53	Asian Social Institute	ミーナ・ラミレス	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
54	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
55	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	ア克蘭州イバハイ	子ども
56	AFS-Southern Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーク州サンホセ	子ども
57	AFS-UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
13	ベトナム			
58	VAFS	ルー・バン・ロック	ホーチミン	貧困対策、子ども
59	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策
14	マレーシア			
60	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ペナン	環境、災害復興
15	ミャンマー			
61	MAFS	ヤム・コーパウ	ヤンゴン	水

16	モンゴル			
62	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
17	ラオス			
63	LPRYU	ワンペン・クンボーライ	ビエンチャン	水、子ども
18	アフガニスタン			
64	AAFS	ラハマツ	ジャララバード	貧困対策



第3回アジア・ユースサミットにて培われた次世代のネットワーク

Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

Ⅲ－A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

1-1 日本

JAFS 東日本大震災緊急支援事業

【宮城県本吉郡 南三陸町歌津地区】

2013年度は、昨年度、経済活動、生産活動を促し、生活・経済再生によるコミュニティの再構築を目指して作られた、地元食品加工場「石泉ふれあい味噌工房」と、地場産品直売所「南三陸直売所みなさん館」双方の施設をまとめる地元組織である夢未来南三陸協議会が、「NPO 法人夢未来南三陸」として宮城県から法人認可を取った。登米市にある NPO 法人故郷まちづくりナイン・タウンと協力をし、事業の充実化を目指して本年度は現地コンサルタントを行った。

また、「石泉ふれあい味噌工房」の支援として、コンテナ倉庫や、樽、梅などの資材の支援を行った。

2012年度よりはじめた復興スタディツアーを継続し、下記の通り実施した。

なお、2013年、復興庁主催の「リバイブ・ジャパン・カップ」では、「みんな笑顔の南三陸直売所みなさん館」が、ライフスタイル部門で奨励賞を受賞。

◇南三陸を訪れる復興支援スタディツアー

震災の爪跡が残る南三陸町。みなさん館や味噌工房を訪れて、地元の方々とふれあい、地元のものを食べ、復興に向けて歩み出そうとしている状況また、震災当時の様子、活動内容をスタディツアーの形で伝えている。

2013年度の開催実績

- ・2013年4月20日～21日
- ・2013年5月25日～26日
- ・2013年6月22日～23日
- ・2013年7月20日～21日
- ・2013年8月31日～9月1日
- ・2013年10月5日～6日
- ・2013年10月12日～13日
- ・2013年12月14日～15日
- ・2014年1月25日～26日
- ・2014年2月15日～16日
- ・2014年3月8日～9日

◇震災で被災した南三陸町立名足小学校は、校舎が使用できずに、4km離れた小学校での間借りしながらの授業を余儀なくされていた。震災2年半後の2013年11月により学校再開。しかし、図書室のあった2階まで泥で浸かっていたために、再開しても蔵書のない状態であった。そこで、小学生向けの図書を約500冊寄贈し、子どもたちが本に親しむ環境を整えることができた。

1-2 フィリピン

ASI、AFS-Manila、AFS Pandan

フィリピン台風30号（ハイエン）被災者緊急支援事業

【フィリピン サマール島、レイテ島、パナイ島の3島11町】

2013年11月にフィリピンを直撃した、観測史上最大の台風30号「ハイエン」。死者・行方不明者数7703名、家屋損壊114万軒。総人口の14%にあたる1320万人が被災。

本会では、現地提携団体の AFS パندانや、ASI(アジア社会科学学院)、AFS マニラのスタッフと協議し、緊急支援を下記の地域と内容にて実施した。

《支援地》

- サマール島北サマール州アレン町、ラワン町
- レイテ島レイテ州パロ町、ドゥラッグ町、アブヨグ町、マヨルガ町、カリガラ町
- パナイ島アンティーク州パンダン町、セバステ町、コラシ町、バルバサ町

《受益者》 3442 世帯(17,210 人)

《内容:配布物資》

- 生活に必要な基本食料（米、水、麺、缶詰、砂糖、栄養飲料、ミルク、ビスケット等）
- 生活物資（ソーラー懐中電灯、キャンパスシート、毛布、サンダル、薬、消毒薬、洗剤、歯ブラシ、歯磨き粉、蚊帳、蚊取り線香、タオル、石鹸、種等）
- 建築資材（屋根資材、釘、工具セット）
- 発電機

《事業成果》

- レイテ島やパナイ島においては、町役場、村長を含めた村落組合員自体すべてが被災しており、機能していない状況が続いていた。そのため、フィリピンで長年活動の経験を活かし、地元の学校、教会等に情報収集を重ね、た。その結果、被災直後にも関わらず、客観的に状況を把握し、確実な受益者リストを作成し、物資を渡すことができた。
- 物資内容に関しては、被災者が生活復旧の一步を踏み出すまでに十分な時間が必要であること考慮し、物資の内容・量の選択をした。また、家屋の全壊・半壊となり、電気などの公共インフラが復旧していない中で、電気がなく、日々野ざらしの状況で住む被災者の状況を十分に考慮し、安全・衛生面をある程度確保し、電力確保と充電などが十分にできるよう蚊帳・タオル・毛布・キャンパスシート・消毒剤や薬等、発電機、ソーラー懐中電灯を購入し、配布した。
- パナイ島においては、家屋や公共インフラだけでなく、畑などが被害にあったために、各種野菜の種や家の修繕材料などを含めた支援を実施し、生活復興支援へと繋がった。

※特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム助成及び台風「ハイエン」寄付募金にて実施。

Ⅲ. 生活支援事業

1-3 フィリピン

AFS-PANDAN ハイエン被災漁師への漁業再開のための支援事業

【アンティーク州パンダン町、ティビアオ町、バルバザ町】

パナイ島アンティーク州ティビアオ町、バルバザ町、パンダン町の漁業従事者は、台風ハイエンにより収入源であった漁業に必要なボート、ボート用モーター、漁網、漁業機材が破壊され、生活の糧を失った。被災者の生活再建のために、本事業を通して、ボート、ボート用エンジン、漁網などの漁業機材の配布を実施し、漁業再開をはかった。

事業期間:2014年3月5日～4月28日

事業地: アンティーク州パンダン町(漁師)

// ティビアオ町(マルバー漁業協同組合)

// バルバザ町(ヒナリナン・エーブル村組合)

配布内容

ボート(漁船)148艇、(内5艇は大型マグロ用漁船)

ボート修理 12艇 裨益者数 800名

エンジン 115台

魚捕獲用のしかけ(フィッシュシエルター 17個)

その他(漁網、釣り糸、重り、浮き、リール)

事業成果:

1. ボート建設を裨益者及び裨益者でない人たちとの協働作業(バヤニハン)にて行い、協働と共助の意識を高めることができた。
2. 100%援助ではなく、村の人たちにボートの土台(キャスコ)の負担を求めたところ、約98%の裨益者が提供してくれた。被災で苦しい中でも自立の意識が生むことができた(一部の貧困層の人たちは、本会確認後、キャスコを支援した。)
3. パンダン町は、漁業組合がないところであったが、この支援を機会に漁業組合形成の気運が高まり、現在組織形成の諸手続をやり利益分担などについて話し合いを行っている(組織形成方法に関しては、本事業の裨益組合であるティビアオ町のマルバー漁業協同組合から教わった。)
4. 漁業シーズンにぎりぎりにボートを完成し、引き渡すことができ、台風により収入手段を失った漁師が、収益を得ることができた。

現在(2014年6月)、本事業の裨益者ではなく、政府からも援助を受けていない被災者に対し、トイレ付き仮設住居の建設を実施しているが、上記の事業の通りバヤニハン(相互扶助)により建設を行う予定である。

※特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム助成及び台風「ハイエン」寄付募金にて実施。

1-4 カンボジア

KAFS カンボジアの洪水における水害被災者への食料及び生活物資配布事業

【シェムリアップ州アンコールトム郡リアンダイ地区、スバイチェック地区】

事業期間 2013年10月25日～11月9日

事業地 シェムリアップ州アンコールトム郡リアンダイ地区、スバイ

チェック地区

カンボジアの大洪水による水害被災者の生活再建の基盤作りを目指して、必要な食料及び生活物資(米(35kg)、乾麺(30個入り2ケース、醤油3本、ナンプラー3本、塩2kg、蚊帳1個、マット1個、ガスストーブ1個/世帯を下記の世帯へ配布した。

事業対象地・対象者数:

シェムリアップ州アンコールトム郡リアンダイ地区

(村名及び裨益者数/村は下記)

- リアンダイ村(291世帯、1,351人)
- プロン村(171世帯、849人)

シェムリアップ州アンコールトム郡スバイチェック地区

(村名及び裨益者数/村は下記)

- コックーク村(30世帯160人)
- プラエ・コー村(33世帯158人)
- スバイチェック村(40世帯、184人)
- コーンドル村(40世帯152人)
- タトラウ村(30世帯131人)、
- ボス・タトラウ村(30世帯、154人)

合計: 665世帯、3139人)

事業成果:

1. KAFS の協力のもと、短期間にて目標数の裨益者に上記の物資を配布することが出来た。
2. 配布時に集まった受益者が自主的にトラックからの荷下ろしを行ってくれたおかげで、短時間にて安全に物資を配布することが出来た。
3. 多くの子どもたちを抱えている世帯が多く、物資の内容、量に対して満足のいくものであったという声が多く聞けた(後のモニタリング調査にて)

課題

1. 課題としては、配布後のモニタリング調査にて種籾のニーズが聞こえたが、本会が対象としていた世帯は、一毛作農業の貧困層の人々であり、既に田植え時期は終了していた。雨期時のためと次の種籾の購入を検討したが、既にマーケットにはなく、結果購入出来なかった。今後のこのようなケースを考え、普段から野菜などの育成が行えるような土壌を作る研修を実施するなど課題が残った。

※特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム助成事業



貧困層の高齢者に対しても支援することができた。
(カンボジア、シェムリアップ州)

Ⅲ. 生活支援事業



南三陸町の復興支援スタディツアーの様子



物資を受け取った被災者
(フィリピン台風、ハイエン緊急支援)



大阪府高石市にて開催されたフィリピン台風支援のための
チャリティコンサートの様子



ボートの建築に取り組む受益者たち
(ハイエン、漁業再開支援事業)



配布された物資を持ち帰る被災者たち
(フィリピン台風ハイエン緊急支援)



完成したボートが海沿いに並ぶ(開漁式にて)
(ハイエン、漁業再開支援事業)

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFS チャリティバザール

今年度も、恒例になっている春と秋の JAFS チャリティバザールを JR 住道駅前北側のデッキ広場で開催した。大東市の市報を通じた広報により出店を通じて本会活動を知る良い機会となった。出店だけでなく、演奏会や伝統舞踊などの披露も定着化し、地域の方々の参加できるイベントとなってきた。

＜春のバザール＞

日時：2013 年 4 月 29 日（祝）10：00～16：00

出店数：34 店 （61 ブース）

＜秋のバザール＞

日時：2013 年 10 月 14 日（祝）10：00～16：00

出店数：30 店 （48 ブース）

(2) 国際理解教育講座

NGO が学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2013 年度も NGO の活動を通じた学校や団体の国際協力への参加について様々な講義・研修を行った。それぞれの学校や団体に国際協力、関心が広がり、学校や団体がある地域を巻き込んだ活動に期待すると同時に個々の魅力が社会で活かすことへのきっかけづくりになることを目指す。

NGO 講師派遣 【のべ 16 か所、1,576 名】

4 月 16 日	日本福祉大学「Meeting My Profession」 NGO の職員として働くこととは (25 名)
4 月 22 日	イオンリテールワーカーズユニオン (20 名) 「アセアンワーキングセミナー学び編」
6 月 7 日	大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業 (39 名)
6 月 29 日	積極人間の集い 講演 (30 名) 於：広島市
7 月 3 日	大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業 (39 名)
7 月 9 日	キワニス大阪 (20 名) 内容：卓話子ども達への支援 ネパールの歩み～ 於：リーガロイヤルホテル
7 月 12 日	大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業 (39 名)
10 月 10 日	魚津市役所「国際交流ボランティア養成講座」 40 名
11 月 7 日	府立布施高等学校 (360 名) 「生命の水」～アジアの生活から学ぶ～

2014 年

1 月 22 日	大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生 社会研究分野主催 「フィリピン台風と NGO の支援」(7 名)
1 月 23 日	府立豊島高等学校 (80 名＝40 名×2 クラス) キャリアデザイン企画「プロに聞く」
2 月 5 日	近畿労金労働組合 (17 名)「本会の活動紹介及び 世界の中のユニオンの動き、台風支援報告」
2 月 25 日	西宮市立甲陵中学校 (500 名) 「カンボジアの農村における水事情」
2 月 28 日	三田市立藍中学校 (260 名) 国際理解教育講演会 「アルミ缶からつながるネパール そして絆づくり」
2 月 28 日	国際ボランティア貯金配分事業 及びゆうちょ 財団 NGO 海外援助活動助成事業報告 活動報告 会 於：第 1 ホテル (70 名) 「バイオガスプラント設置と児童環境教育を通 してのネパール農村改善支援活動」
3 月 25 日	三田市こども教育委員会 (30 名) 公立中学校国際支援活動まとめ講演 「アミル缶からつながるネパールとの友好の架 け橋～井戸を通じての絆づくり～」

授業受け入れ 【3校 33名】

6 月 21 日	松原高等学校 (13 名＋教員 1 名) 国際理解授業 (児童労働) グループ学習発表)
9 月 26 日	城星高校 (6 名＋教員 1 名) 国際理解授業
12 月 6 日	大手前高等学校 (10 名＋教員 2 名) 国際理解授業 (集中セミナー)

(3) インド文化センター講座

インド文化センターはインドの文化、思想の紹介を図り、日印間の相互理解と文化交流を促進し、インド文化愛好者相互の親睦を目的として 1987 年設立され、137 回の例会が行われたが、2003 年に閉会した。2005 年本会の国際理解・文化事業の一環として JAFS インド文化センターが新しく発足。インドの歴史、宗教思想、文化の多様性と奥行きを日本の方に楽しく親しく広く学べる場として、宗教、思想や芸術にくわえ、古代の占い、暦、天文学、数学、医学を取り上げている。

引き続き、連続講座を予定していたが、講師等の都合により延期している。

(4) アジア文化理解講座

国際協力を一般の人が身近に感じられる催しを通じて、国際交

IV. 普及啓発事業

流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2013 年度はアジア 13 地域 18 回のアジア家庭料理教室を行い、延べ 326 名の参加を得た。

会 場：クレオ大阪西 調理室

4 月 18 日、23 日	フィリピン	参加者 26 名
	講師:ビーナ ジードル 氏	
5 月 28 日	沖縄	参加者 17 名
	講師:運天 優子 氏	
6 月 20 日、25 日	ネパール	参加者 28 名
	講師: カデュカ アマリット 氏	
7 月 18 日、23 日	イラン	参加者 30 名
	講師: ダリア アナビアン 氏	
8 月 1 日	中国新疆ウイグル自治区	参加者 18 名
	講師:ジャミラ ウライム 氏	
9 月 10 日、19 日	ベトナム	参加者 28 名
	講師:ブイ タン ハン 氏	
10 月 29 日	タイ	参加者 20 名
	講師:秋田 ローリ 氏	
11 月 12 日	内モンゴル自治区	参加者 19 名
	講師:劉偉 氏	
12 月 10 日、19 日	インドネシア	参加者 27 名
	講師:シャフウイナ 氏	
1 月 23 日、28 日	上海	参加者 34 名
	講師:沈 慧敏 氏	
2 月 4 日、20 日	韓国	参加者 28 名
	講師:孫 君子 氏	
3 月 2 日	スリランカ	参加者 23 名
	講師: ワサンタ ダルマシリ 氏	
	ラックスマン フェルナンド 氏	
3 月 6 日、11 日	インド	参加者 28 名
	講師:ナゼマ トラバリ 氏	

(5) インターンシップ プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入 **【3 校 10 名】**

◆甲南女子大学 (3 名)

1)「文学部多文化コミュニケーション学科ボランティア・インターンシップ体験演習Ⅲ」

5 月 23 日～1 月末の間で、60 時間以上の実習を行った。今年度は、新規 2 名が「アジアユースサミット」と、「井戸」、昨年よりの継続者 1 名が「ネパール支援栄養改善プロジェクト」と各々にテーマを決め、ボランティア体験実習を行った。

5 月 20 日 インターン演習説明会

5 月 23 日～1 月 実習期間

内容:「アジアユースサミット」でのアジアの食事メニューのチェックシートを分析をし、まとめたものをサミット中に発表した。「井戸」をテーマにした実習生は井戸支援者拡大のためのパンフレット作成。「ネパール栄養改善プロジェクト」をテーマにした実習生は、現地の小学

生たちの栄養指導のための紙芝居を完成させた。

2)行動演習

短期間で同じ内容に対して一貫活動をするボランティア活動より、自分の役目を見極め、その場その場での対応力を養うための実習

期間:2014 年 1 月 31 日～2 月 2 日

内容:ワンワールドフェスティバルでの実習

実習生:1 名

◆神戸学院大学 (3 名)

「総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 ヒューマンサービス実習」

6 月 29 日～12 月中旬の間で 3 名×168 時間の実習をおこなった。今年度の実習生は、1 名アジアユースサミットを主テーマにしての実習希望者があり、それを重点に実習を主にした。その他 2 名は、事務所での事務作業の補佐及び AYS、チャリティイベント、地区活動においての実習をおこなった。

6 月 29 日 実習オリエンテーション

8 月 7 日～12 月 13 日 実習期間

2 月 5 日 実習報告会

◆大阪経済大学 (4 名)

「国際協力とボランティア」体験実習

後期「国際協力とボランティア」の体験学習の一環としてのボランティア実習受け入れを 4 名行う。

10 月 24 日～11 月 15 日の期間 1 名あたり 24 時間以上の実習を行い、国際ボランティア団体の活動を理解する実習。

JAFS 事務局での事務補佐及び実習期間 1 回は地域での活動にも参加し、市民による国際協力団体の国内外における活動を実施。

10 月 11 日 実習オリエンテーション

1 月 17 日 「国際支援とボランティア」報告会参加

(6) 国際協力ボランティア講座

◆JAFS 国際ボランティア養成講座◆

本会のこれまでの経験と実績を活かし、今後の国際ボランティア活動を目指す人たちの人材育成のための養成講座を実施した。

	開催日程	テーマ・内容
第 1 回 参加者 1 名	1 月 29 日	「国際ボランティア、その目的と意義について」 国際ボランティア活動の必要性、その内容等の概略説明
第 2 回 参加者 3 名	2 月 5 日	「国際ボランティア活動の歴史と今日的課題」 慈善活動から、人間の安全保障という普遍的概念へ
第 3 回 参加者 0 名	2 月 12 日	「国際ボランティア活動の理論的背景」 地球運命共同体理論をめぐって
第 4 回 参加者 3 名	2 月 19 日	「国際ボランティア活動の現場報告」 アジア各国の現場から― 開発支援、災害支援等
第 5 回 参加者 1 名	2 月 26 日	「国際ボランティア活動の実態」 日本や世界の主なボランティア団体の活動紹介を行う

Ⅳ. 普及啓発事業

第6回 参加者 1 名	3 月 5 日	「現場における国際ボランティア活動の諸問題」 現地主義と異文化理解の問題について
第7回 参加者 2 名	3 月 12 日	「国際ボランティア団体の組織運営について」 その運営の実態及び、専従職員の待遇のあり方等について考える。
第8回 参加者 1 名	3 月 19 日	「実務演習」 ①ケース・スタディー：現地が直面する課題の具体的解決策を考える。 ②支援方法の立案：上記課題の具体的支援方法を考える。
第9回 参加者 2 名	3 月 26 日	「人間と未来とボランティア活動」 生きる価値観の選択、地球の未来を開くボランティア精神

◆ボランティアガイダンス◆

1) お母さん対象

「お母さんのためのボランティア ガイダンス」

アジアのお菓子とお茶を食べながらお母さんたちが国際ボランティアを身近に感じ参加する一歩につながることを目的に実施。子どものいるお母さんたちなので当日キャンセル者もでたが、継続活動をしていく方向で決まり、2 奇数月の第 3 金曜日に実施し、お誘いしながら集い、ママ友でつくるボランティア コミュニティー。定期的開催にするかを検討中。

実施日：5 月 17 日(金) 参加者：お母さん 4 名 子ども 3 名
7 月 12 日(金) 参加者：お母さん 4 名 子ども 3 名
9 月 20 日(金) 参加者：お母さん 2 名 子ども 1 名

2) シニア対象

2012 年度より高齢化社会が本格化する中で、高齢者が満足感をもって日々の生活を生き、尊厳をもって人生が送れることを願い、「シニア世代が元気に活躍できる環境づくり」を趣旨として開催してきた、引き続き 2013 年度は環境保全及び次世代育成プログラムに参加のための説明会を実施、3 月 27 日から 30 日までの美山土と水と緑の自然学校に参加。

日 時：2013 年 1 月 5 日(日)
場 所：京都府美山町大内地区
参加者：22 名

(7) 関連プログラム／その他団体協力

◆(特活) 関西国際交流団体協議会

- 1) 加盟し、理事として理事会出席協力活動を行っている。
- 2) ワン・ワールドフェスティバル 2014
1993 年より毎年大阪で開催、今年 21 回目を迎えた。関西の NGO、NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力・交流活動を幅広く紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。
期 間：2014 年 2 月 1 日(土)、2 日(日)
場 所：大阪国際交流センター
来場者：16,500 名(2 日間延べ人数)

主 催：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
内 容：

① NGO 活動紹介ブース

来場者を対象に活動紹介とワークキャンプ参加者、ボランティア募集の告知とアジアグッズの販売を行った。

② 民族料理模擬店出店

JAFS ファミリーグループ(スリランカ・サルボダヤ支援会、Paon)が協力し、アジアの料理(担担麺、チャイ、ゴードンパロディ、アジア風から揚げ)を販売した。収益をアジアへの支援金にあてるとともに、食を通してアジアの理解を深めた。

③ セミナー『国際協力で「はらたく」を考える』

本会スタッフ熱田典子がパネリストとして参加。

◆(特活) 関西 NGO 協議会

加盟し、理事として理事会に出席、協力活動を行っており、同会推薦のもと、本会スタッフ 1 名が龍谷大学大学院政策学部政策学研究科に 2014 年 4 月就学することが出来た。

◆公益財団法人自治体国際化協会

アドバイザーとして協力活動を行っている

◆公益財団法人大阪府国際交流財団

評議員として協力活動を行っている

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議 (KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆国際協力 NGO センター (JANIC)

正会員として加盟し、協力活動を行っている。

グローバルフェスタ JAPAN2013」は、国際協力をより身近なものに感じるとともに、国際協力の現状・必要性などについての理解と認識を深めていくことを目的としたイベント。

2007 年より JAFS 関東として展示・飲食物参加

会員 14 名参加、収益金をミャンマー子ども村建設に入金した

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。

◆ネパール NGO ネットワーク (4N)

加盟し、協力活動を行っている。

◆近畿大学◆

前期授業の期間 週に 1 度 1 科目講義を受け持っている。

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動、理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し、多岐にわたり地域活動が行われてきた。中には 20 年近く活動を継続している地域もあり、益々の広がりを見せている。

第 1 エリア：大阪府北部、兵庫県東部

IV. 普及啓発事業

- 第2エリア：大阪府東部
- 第3エリア：大阪市内
- 第4エリア：大阪府東南部
- 第5エリア：京都府、滋賀県
- 第6エリア：武庫川以西の兵庫県
- 第7エリア：奈良県、東大阪、八尾
- 第8エリア：大阪府西南部
- 第9エリア：和歌山県、西日本
- 第10エリア：東日本

(1) エリア世話人会・全体地区世話人会

◆エリア世話人会◆ 計12回実施 13名
定例会：毎月第3火曜日
各地区世話人の内より、エリア毎に委任されたエリア世話人(各エリア2〜3名程度)で構成、エリア内の各地区世話人との情報交流、連絡調整を計り、事務局と地区のパイプ役をつとめる。また、地域活動における事務局事務(主として連絡、広報)を補佐を行なう。

◆全体地区世話人会◆ 年2回
＜前期＞
日程：6月21日(土)13:00〜16:00
会場：第一部 奈良中部公民館
第二部・第三部 奈良女子大学記念館
テーマ：『地域とつながる国際協力のために知恵をかして下さい！
〜各地域での新たな取り組み等について』
出席者数：19名
実行委員：第2、4、5、7エリア地区世話人

＜後期＞
日程：2013年11月22日(金)〜23日(土)
会場：西宮市立甲山自然の家
テーマ：『確実に拡がりつつあるアジアの友の輪
〜私たちから発信しよう アジア支援のウェーブを〜』
出席者数：20名
地域社会で拡げる市民活動
〜こども環境活動支援協会の活動に学ぶ
実行委員：第1、3、6、8エリア地区世話人

(2) 地区世話人一覧

※印 エリア世話人		
エリア	地区	氏名
1	尼崎	天野澄子※、黒谷侑子
	池田	石原基義
	高槻	島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー
	豊中	川良幸子、豊田祥二
	箕面	平瀬勢丈、平手清
2	門真	友松千草
	四條畷	小浜喜代子、小柳二郎
	大東	東村小夜子

	寝屋川	笠谷正博※、菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ、船曳正之、松山博子
	枚方	明見睦子、天野由紀代※、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
	守口	大野賢信、真田朱美、二野英子
3	大阪市	有馬純夫、寺岡源司※、中島三栄子、福岡好嗣※
4	河内長野	今井利子※
	富田林	東野ゆかり
	藤井寺	森わか子
	松原	橋本末子※、六車勝三
	美原	田中千鶴子※、中嶋啓子
5	宇治	柿木良昭※、杉林則子、田中紀代三※、桜屋敷寛子
	亀岡	辻賢二
	京都市	大倉達也、菅 洋子
	野洲郡	深田陽一
	八幡	福川 肅
6	神戸・芦屋	井上登志子
	三田	芝野照久、堀 正之
	西宮	岡田 昂※、木崎義純、斎藤英美子、畠中美代子、平山隆史
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒	青木美千代、山田いづみ※、有山京子
	奈良	高以良泰治、野口明英
	東大阪	岡田 一、坂上やよひ※、南野紀美子
8	和泉	出原とよ
	泉大津	草加節男
	高石	佐藤満昭
	堺	幾谷真嬉子、久保幸子
9	新宮	奥田 勲、瀧野秀二、瀧野三重子、中西 洋
	田辺	小森茂之
	広島	宇田和博
	和歌山	長江佐和
10	東京	川崎隆二、広住道夫、市来伴子
	名古屋	清水三千夫
	瀬戸	壁谷桂子
	宮崎県	黒木隼彦

(2013年3月31日現在/計87名)

(3) 第1エリア

【尼崎】(天野澄子、黒谷侑子【池田】石原基義【高槻】島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー【豊中】川良幸子、豊田祥二、【箕面】平瀬勢丈、平手清、三雲孝)

- 4月26日 第1エリア局長懇談会 於：JAFS 会議室
- 5月5日 中山寺子どもフェス 於：大本山 中山寺
ティバル参加
- 5月16日 打ち合わせ会 於：霊松寺

IV. 普及啓発事業

6月22日	於：豊中町つくりセンター	於：豊中ぞうすいの会
7月14日	七夕まつり	於：豊中駅周辺
10月1日	世話人会	於：JAFS 会議室
11月10日	高槻ぞうすいの会	於：霊松寺
2014/1/19	第一エリア新年会	於：霊松寺
2月16日	豊中世話人会	於：環境センター

(4) 第2エリア

【第2エリア合同】

チャリティーイベント ～竹中 真ジャズに明日をのせて～の実施

5月7日	第2エリアチャリティーイベント打ち合わせ 於：ふらっとねやがわ
5月14日	第1回チャリティー実行委員会 於：ふらっとねやがわ
5月29日	第2回チャリティー実行委員会 於：ふらっとねやがわ
7月1日	第3回チャリティー実行委員会 於：ふらっとねやがわ
7月14日	第2エリアチャリティーイベント 実施 ～竹中 真ジャズに明日をのせて～ 於：市立エスポアール 来場者：80名 チケット販売枚数：98枚
2月9日	第2エリア新年会 於：京橋・カトマンズ ドゥイ 参加者：14名

<植林実行委員会 “JAFS 北河内 緑とふれあう会” >

(会長：佐々木実、副会長：笠谷正博、虫明慧悟、小笠原

会計：吉田幸子、書記：天野由紀代)

4月13日	農園作業(ジャガイモ植付、草取り、野菜収穫(ニラ、ホウレンソウ、ワサビ菜、ネギ)
27日	農園作業(畝作り、起耕、草取り、サトイモ植付)
5月11日	雨のため、農園作業中止(実行委員会のみ開催)
26日	農園作業(タマネギ収穫、ジャガイモ植付)
6月1日	“田植えに挑戦してみよう！”(田植え、コビル(軽い食事会))
8日	農園作業(サツマイモ畝作り、草取り、水やり、紫陽花植樹段取り)
15日	“御殿山神社を紫陽花で彩ろう”(於 御殿山神社)
22日	農園作業(ジャガイモ掘り、サツマイモ畝作り、草取り、水やり)
7月7日	紫陽花植樹(於 御殿山神社)
13日	農園作業(ジャガイモの収穫、草取り、水やり、溜池井戸使用説明)
27日	農園作業(サツマイモ畑の草取り、水やり)
8月10日	農園作業(水やり、草取り)
24日	農園作業(草取り、水やり)
9月14日	農園作業(水やり、草取り、秋野菜の畝立て、大根播種)
28日	農園作業(畝作り、起耕、草取り、水やり、秋野菜播種)

10月12日	“稲刈り体験してみよう！”(稲刈り、簡単な食事)
26日	農園作業(芋ほりの作業準備、タマネギの畝立て、草取り、水やり)
11月2日	“芋ほり&収穫祭”(芋ほり、収穫祭食事)
16日	農園作業(タマネギ植付)
30日	“ミカン狩りウォーカソン”(ミカン収穫)
12月14日	農園作業(水やり、草取り、稲木の片付け、畝起こし、タマネギ追肥)
1月11日	農園作業(土作り、草取り、水やり、冬野菜収穫、タマネギの草取り)
25日	農園作業(草取り、水やり、春野菜の準備)
2月8日	雪のため、農園作業中止
22日	2013年度総会開催
3月8日	農園作業
22日	農園作業

※上記以外に毎月第4土曜日に実行委員会を行った。

【守口】(大野賢信、真田朱美、二野英子)

4月3日	守口地区例会 (国際交流センター)
4月6日	守口緑化協会 桜まつり参加
4月21日	橋波商店街 イベント参加
4月29日	JAFS 住道チャリティバザー参加
5月1日	守口地区例会 (国際交流センター)
5月11日	守口市だんじり祭り 参加
5月12日	守口市だんじり祭り 参加
5月19日	橋波商店街 イベント 参加
5月25日	橋波商店街 イベント 参加
6月5日	守口地区例会 (国際交流センター)
6月16日	橋波商店街 イベント 参加
7月3日	守口地区例会 (国際交流センター)
7月6日	七夕まつり参加 (守口カナディアンスクエア)
7月15日	弁天池祭り 参加
7月22～23日	高瀬神社夏祭り 参加 守口事務所前
8月3日	橋波商店街 夜市 参加
8月7日	守口地区例会 (国際交流センター)
9月4日	守口地区例会 (国際交流センター)
9月15日	橋波商店街 イベント 参加
9月28日	橋波商店街 イベント 参加
10月2日	守口地区例会 (国際交流センター)
10月14日	JAFS 住道チャリティバザー参加
10月22～23日	高瀬神社秋祭り 接待 守口事務所前
10月26日	ちびっ子フェスタ参加守口、カナディアンスクエア
10月27日	橋波商店街 イベント 参加
11月3日	守口市市民祭り参加
11月6日	守口地区例会 (国際交流センター)
11月10日	寺方提灯踊り 参加
11月17日	国際交流フェスティバル参加
12月1日	橋波商店街 イベント 参加
12月4日	守口地区例会 (国際交流センター)
12月15日	橋波商店街 イベント 参加
2014年1月8日	守口地区例会 (国際交流センター)
1月11日	大宮神社 20周年会 参加
1月12日	チャリティ餅つき大会 開催
1月25日	橋波商店街 イベント 出店

Ⅳ. 普及啓発事業

2月5日 守口地区例会（国際交流センター）
 2月16日 橋波商店街 イベント 参加
 3月5日 守口地区例会
 3月16日 橋波商店街 イベント 参加

【四條畷】（小柳二郎 小浜喜代子）

地区単独の活動が難しい状況が続いているが積極的にエリア合同プログラムに参加し、活動の幅を広げていきたいと考えている。

2014年 第2エリア新年会参加
 2月9日 於：カトマンズドゥイ

【枚方】（吉田幸子、天野由紀代、船戸康夫、虫明慧悟、明見睦子、佐々木実）

5月25日 5/25 寝屋川多文化フェスティバル（協力参加）
 於：寝屋川市民会館
 7月14日 7/14 チャリティーコンサート（第2エリア企画）
 “竹中真 ジャズに明日をのせて”
 於：寝屋川市立エスポアール
 8月15日 地区世話人会
 8月24日～25日 枚方まつり 参加
 24日JAFSネパールへのかけ橋
 25日枚方地区会 悪天候のため中止
 9月22日 枚方NPOフェスタ 参加
 於：枚方市駅前岡東中央公園
 11月27日 フィリピン台風30号被災者への緊急支援街頭募金
 於：枚方市駅前ふれあい通り
 11月30日 みかん狩りウォーク（寝屋川・枚方共同企画）
 星田駅→石の宝殿古墳→東高野街道→寝屋古墳→
 JAFS北河内緑とふれあう農園
 12月14日 フィリピン台風30号被災者への緊急支援街頭募金
 （協力参加） 於：寝屋川市駅前
 2014年2月9日 第2エリア懇親会（第2エリア企画）
 於：カトマンズドゥイ
 2月23日 寝屋川バルーン祭（協力参加）
 3月6日 地区世話人会

【寝屋川】（笠谷正博、畠山ひろみ、船曳正之、根津千枝子、松山博子）

4月23日 第2エリア会員会議 於：サンプラザ枚方
 4月28日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 5月7日 第2エリアチャリティーイベント打ち合わせ
 於：ふらっとねやがわ
 5月14日 第1回チャリティー実行委員会
 於：ふらっとねやがわ
 5月19日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 5月25日 第5回寝屋川多文化フェスタ
 活動展示・チャリティ参加 於：市民会館
 5月29日 第2回チャリティー実行委員会
 於：ふらっとねやがわ
 6月23日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 7月1日 第3回チャリティー実行委員会
 於：ふらっとねやがわ
 7月14日 第2エリアチャリティーイベント
 ～竹中 真ジャズに明日をのせて～
 於：市立エスポアール

7月20日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 8月5日 チャリティーイベント反省会 於：ラポール枚方
 9月21日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 10月6日 第45回ねやがわぞうすいの会 於：秦公民館
 「ネパールの母子保健をみつめて」
 スピーカー 大谷タカコさん他
 10月27日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 11月9日 市民活動センターふれあいフェスタ
 11月24日 ふらっとねやがわまつり
 活動展示・フィリピン被災者募金
 於：ふらっとねやがわ
 11月26日 フィリピン台風被災者支援募金 於：枚方・岡東公園
 11月30日 寝屋川・枚方地区合同ウォーク
 みかん狩り・東部丘陵の古墳を訪ねて 於：寝屋川東部
 12月1日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 12月14日 フィリピン台風被災者支援募金
 於：京阪寝屋川市駅前
 2月1日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター
 2月9日 第2エリア新年会 於：京橋・カトマンズ
 2月23日 バルーンフェスティバル
 チャリティ参加 於：寝屋川5中
 3月22日 寝屋川地区定例会 於：市民活動センター

（5）第3エリア

【大阪市】（有馬純夫、齊藤かおる、寺岡源司、中島三栄子、福岡好嗣）

6月1日 まいど！大阪おもしろツアー 参加：32名
 9月29日 まいど！大阪おもしろツアー 参加：43名
 「天満組と大塩平八郎が駆け抜けた町を訪ねて」
 10月17日 御堂筋ふれあいバザー 参加6名
 10月18日 於 大阪ガスビル本社前
 10月24日 南三陸町への復興支援として参加
 10月25日 ＊このほか4月において2日間の実施。4月25日、
 11月14日 4月26日参加3名
 11月15日
 12月1日 南あわじ市ぞうすいの会 参加45名
 12月7日 まいど！大阪おもしろツアー 参加：32名
 「夢かまぼろしか西長堀を歩く」
 3月15日 まいど！大阪おもしろツアー 参加：30名
 「陰陽師・安倍春明の生まれし阿倍野を訪ねる」

<定例会>

毎月第3木曜日に本会事務局にて定例会合を開催（合計11回）

（6）第4エリア

【河内長野】（今井利子）

2014年 河内長野市ボランティアフェスティバル参加
 2月23日 於：河内長野市市民公益活動支援センター
 “ボランティアフェスティバル”では、アジア子ども絵画の展示、
 および本会の最新の支援活動を展示 PR し、アジア雑貨のチャリ
 ティ販売を行った。

Ⅳ. 普及啓発事業

【松原】(橋本末子、森わか子)

JAFS 松原ブログ(田中愛子担当)は、「松原どうすいの会」を軸に、JAFS 松原の活動報告を逐次掲載。松原市ボランティア連絡会(松原 V 連)に加盟。JAFS 松原どうすいの会の協賛、講師謝礼、会場提供の助成を受けた。

- 4 月 13 日 松原 V 連 4 月例会
4 月 14 日 松原 V 連 総会
5 月 1 日 松原 V 連 5 月例会
5 月 26 日 「第 63 回 JAFS 松原どうすいの会」 (参加 26 名)
ゲスト: 金晶晶 (内モンゴル)
話題: 内モンゴルの人々の暮らし〜私の故郷、通
於: 松原市立総合福祉会館 2 階
6 月 15 日 松原 V 連 6 月例会
6 月 21 日 JAFS 地区大会出席
7 月 20 日 松原 V 連 7 月例会
7 月 30 日 64 回松原どうすいの会 JAFS 於て打ち合わせ
9 月 1 日 「第 64 回 JAFS 松原どうすいの会」 (参加者 35 名)
ゲスト: サルマ・クルシュナ氏 (インド/ネパール)
話題: シェフト作ろう〜インド本場の家庭料理カ
レー
9 月 18 日 於: 松原市立総合福祉会館 2 階
松原第 3 中学校区フェスタ会議
9 月 21 日 V 連 9 月例会 & 第 1 回「ボランティア講座」発
9 月 28 日 表
10 月 19 日 松原 V 連第 2 回「つながるひろがるボランティア
10 月 22 日 講座」発表
10 月 31 日 松原 V 連 10 月例会
11 月 2 日 松原ワールドフェスタ会議
松原三中フェスタ説明会(授業)
「松原第 3 中学校区フェスタ」
・パネル展示
11 月 10 日 ・フレンドサポート (JAFS 里親会ナラ君募金
・チャリティバザー (揚げバナナ、アヤムゴレン)
「松原ワールドフェスタ」
11 月 16 日 於: 松原ユメニティ 3 階
12 月 1 日 ・パネル展、民族衣装着付け、
松原 V 連 11 月例会
「松原ボランティア祭り」 松原 V 連&松サボ共
12 月 21 日 催
2014 年 於: 松原市立総合福祉会館 2 階、3 階
1 月 14 日 ・チャリティバザー参加 (ネパールグッズ、チャイ)、パネル展
松原 V 連 12 月例会
1 月 21 日
1 月 26 日 松原どうすいの会打ち合わせ(松原サボ)
松原 V 連 1 月例会
松原どうすいの会打ち合わせ・準備(JAFS)
「第 65 回 JAFS 松原どうすいの会」 (参加者 27
3 月 15 日 名)
3 月 23 日 於: 松原市立総合福祉会館 2 階、3 階
ゲスト: セサルティコナ氏 (ペルー)
講話: ペルーの風景 〜folklore にのせて
松原 V 連 3 月例会
「第 66 回 JAFS 松原どうすいの会」 (参加者 20 名)
於: 松原市立総合福祉会館 2 階
ゲスト: 青木洋介氏 (JAFS スタッフ)
講話: 国際協力の仕事から見てきたこと
ゲスト: 松原高校 JAFS ユースサミット参加者

講話: 食の安全〜JAFS ユースサミット参加と
その後

【美原】(中嶋啓子、田中千鶴子)

- 5 月 22 日 地区懇親会および新入会員への説明会
11 月 3 日 美原区民まつり準備
11 月 4 日 美原区民まつり (旧美原おもろいデー) に参加
11 月 22 日 美原区民まつり反省会および懇親会
12 月 22 日 地区懇親会および忘年会
1 月 21 日 地区懇親会および新年会
2 月 10 日 地区懇親会および新入会員への説明

【富田林】(沖田文明)

富田林地区会「ラリグラス」では 2013 年度も各地のチャリティバザー
参加やアルミ缶のリサイクル活動を中心に活動しました。
これらの活動は、ネパールに学校を建設する為に地域の方々と共に
取り組んでいます。新年度は、4 校目となる学校建設資金を貯めて寄付
しようと計画しています。

- 4 月 29 日 JAFS チャリティーバザール参加
5 月 5 日 堺・さつき祭り (山之口商店街) 参加
10 月 6 日 津々山台公園「地域の輪祭り」にバザー参加
10 月 20 日 堺まつり (山之口商店街) 参加
4 月〜2014 年 3 毎月第一日曜日、高石漁業組合バザーにリサイク
月 ル品のチャリティ販売
4 月〜2014 年 3 毎月 28 日滝谷不動尊縁日にリサイクルバザーを
月 開催

※フィリピン台風災害支援募金として 10 万円を寄付

(7) 第 5 エリア

【京都・宇治・野洲】(大倉達也、菅洋子、柿木良昭、杉林則子、 田中紀代三、辻賢二、福川肅、深田陽一)

- 4 月 22 日 京都地区会 於:メルパルク京都
5 月 13 日 京都地区会 於:メルパルク京都
6 月 6 日 京都府・京都市協力依頼
ウイングス京都 会場下見・打合せ
於:京都府庁・京都市役所・ウイングス京都
6 月 15 日 京都地区会 於:セカンドハウス
7 月 13 日 宇治地区会 於:宇治
7 月 15 日 京都チャリティ公演 於:ウイングス京都
『二大文明の共演 〜インド古典舞踊と
シルクロード音楽の出会い〜』
出演者:柳田紀美子氏、ピーター グライトリー氏、
チャンドリカ舞踊団、ジャミラ ウライム氏、
シルクロード・ローラン歌舞団
7 月 28 日 第 18 回アジアお茶まつり
『バングラデシュの風を感じよう!』
於:ユニチカユニオン宇治川会館
9 月 30 日 京都地区会 於:メルパルク京都
10 月 11 日 京都府・京都市 後援報告

IV. 普及啓発事業

- 於:京都府庁・京都市役所
11月8日 京都チャリティパーティ ゲスト相談会
於:ウイングス京都
11月9日 京都地区会 於:メルパルク京都
11月30日 京都チャリティパーティ 於:京都市国際交流会館
『東洋の真珠 スリランカの魅力
～スリランカの人々の暮らしと文化～』
ゲスト:ディネシュ チャンダーナ氏
ルーワン ガラージ氏
木川 貴代司氏
3月17日 京都地区会 於:メルパルク京都

(8) 第6エリア

【西宮】(岡田昂、大木洋子、木崎義純、斉藤芙美子、畠中美代子、平山隆史)

- 4月29日 活動パネル展示とバザー参加
於:西宮中央教会 ふれあいマーケット
5月30日 スタッフ会 会員向けアンケート検討打合せ
於:西宮市中央公民館
7月23日 スタッフ会 8月チャリティ・コンサート準備打合せ
於:西宮市中央公民館
8月20日 スタッフ会 10月ぞうすいの会準備打合せ
於:西宮市中央公民館
8月25日 竹中真さん チャリティ・ジャズ・ピアノコンサート
(50名余)
於:西宮中央教会
10月6日 ぞうすいの会フィリピン編(16名)
ゲストスピーカー エリザベスさん、他3名
於:西宮市中央公民館
12月20日 スタッフ会 会員向けアンケート発送準備打合せ
日 於:西宮市中央公民館
1月11日 西宮市在住会員向けアンケート発送
発送57名、回収21名
2月19日 スタッフ会 西宮国際交流デー準備打合せ
於:西宮市中央公民館
2月23日 西宮国際交流デーに参加
活動パネル展示、アジア/東北物品販売
於:西宮フレンテ

【姫路】(森 梢、荒川鉄也、中尾和子)

定例会:毎月第1木曜日 19:00～

場所:イーグレ姫路 ボランティア活動室

- 4月4日 4月地区世話人会
於:イーグレ姫路
4月18日 本部役員との打ち合わせ
於:日航ホテル姫路
5月2日 5月地区世話人会
於:イーグレ姫路
6月13日 6月地区世話人会
於:イーグレ姫路
6月22日 アジア料理教室、インドネシア料理

- 於:イーグレ姫路
7月11日 7月地区世話人会
於:イーグレ姫路
8月1日 8月地区世話人会
於:イーグレ姫路・調理室
9月5日 9月地区世話人会
於:イーグレ姫路
10月10日 10月地区世話人会
於:イーグレ姫路
22日 国際交流フェスティバル参加 チャリティバザール
(チャイ、フェアトレード物品、南三陸物品)
於:大手前公園
11月2日 ウォーカソン イン妻鹿
国府山城跡散策、黒田職隆墓見学
集合:妻鹿周辺
7日 11月地区世話人会
於:イーグレ姫路
12月5日 12月地区世話人会
於:イーグレ姫路
1月9日 1月地区世話人会
於:イーグレ姫路
2月6日 2月地区世話人会
於:イーグレ姫路
3月2日 スプリングフェスティバル参加チャリティバザール
(フェアトレード物品、南三陸物品)
於:イーグレ姫路
20日 3月地区世話人会
於:イーグレ姫路

(9) 第7エリア

【奈良・生駒・大和郡山】(青木美千代、有山京子、一瀬由起子、金剛一智、高以良泰治、塚原弘子、野口明英、福岡奈津子、福田賢治、矢野恵美子、山田いづみ、山田穂積、和田達生、渡邊瑠璃子)

- 4月13日 奈良地区会 春の宴・教養講座
於:野口会員宅
4月19日 奈良地区4月例会 於:奈良中部公民館
5月7日 奈良女子大学 会場下見&相談会
於:奈良女子大学
5月30日 奈良地区5月例会 於:奈良中部公民館
5月31日 唐招提寺 活動報告・案内 於:唐招提寺
6月21日 『スラムドック\$ミリオネア』上映会と
原作者ヴィカース・スワループ氏の講演会
『INDIA TRADITION AND CHANGE
～インド、その伝統と変貌』
於:奈良女子大学
総領事を囲んで 交流会 於:カシュガシユ
8月5日 奈良地区8月例会 於:奈良県庁
10月18日 奈良地区10月例会 於:奈良中部公民館
11月26日 奈良地区11月例会 於:奈良中部公民館
12月2日 フィリピン台風被災者支援のための街頭募金
於:近鉄生駒駅周辺

IV. 普及啓発事業

- 1月10日 奈良地区1月例会 於:奈良中部公民館
 1月19日 奈良地区報告会&交流会
 『アジアのこと、もっと深く聞きますか?』
 於:生駒市コミュニティセンター
 軽井沢自治会館
 2月11日 竹送りウォークソン
 於:京田辺市及び奈良市
 奈良ぞうすいの会 於:今小路会館
 お話:『お水取りと竹送り』
 講師:奈良街道まちづくり研究会
 事務局長山口さん
 3月28日 奈良地区3月例会 於:奈良中部公民館

(10) 第8エリア

【和泉市・堺市・高石市・泉大津市】(出原とよ、幾谷真嬉子、久保幸子、佐藤満昭、草加節男)

- 4月25日 第8エリア会 今後の活動について相談
 於:泉ヶ丘ビッグアイ
 5月5日 さつきまつり 参加 於:山之口商店街
 7月15日 第5回ギターサマーコンサート
 ～一滴の水からはじまる自立の支援～
 出演:ギターアンサンブル Part II 他
 於:堺市東文化会館
 10月8日 瀬田敦子さんと共演するために来日中のタイ
 ピアニスト ぞうすいの会に出席
 於:JAFS 事務局
 11月18日 フィリピン台風被災地支援
 支援金を本部に届ける 於:JAFS 事務局
 12月18日 フィリピン台風支援
 瀬田敦子チャリティコンサート 於:除園
 12月19日 フィリピン台風支援
 瀬田敦子チャリティコンサート
 於:モーツアルトサロン
 10月20日 堺まつり 参加 於:山之口商店街
 11月4日 和のクリスマス展
 於:和泉シティプラザ 3F レセプションホール
 1月2日 家原寺 街頭募金活動 応援
 3日 於:家原寺
 1月10日 新春チャリティー小品展
 ～22日 東日本・フィリピン被災地支援
 於:ギャラリーいろはに
 2月16日 フィリピン台風被災者支援コンサート
 ～心をひとつに 東日本大震災の恩返し～
 出演:さんふらわあ～音楽隊
 於:高石市中央公民館

(11) 第9、10エリア

【東京】(岩田芳晴、高岸泰子、長谷川雅子、雨宮義人、端無勝、菊池美智子、田中政直、小島学、川崎隆二、佐藤理香、森山涼子、石田雅昭、原 京、武田明沙香)

- 5月18日 「寅さんの街へ行こう! 葛飾柴又・帝釈天 チャリティウォーク」を開催。寅さん記念館、矢切の渡し、水元公園での自然探勝など見所満載のチャリティウォーク。お年寄りの方から小学生まで、心のウォークも加えて24名が参加。
 7月13日～ 第6回小谷村ワークキャンプ。スタッフの関係する塾の生徒たち9名を含め17名が参加。さまざまなハンディキャップを背負った共働学舎のメンバの人たちと、農作業などのお手伝いをしながら、3日間のワークキャンプ。
 9月7日 2013年第2回委員会開催(於:JICA 地球広場)。参加委員5名。主な議題:①5月チャリティウォークと7月国内ワークキャンプの反省点、今後の進め方、②9月チャリティウォークの実施方法、③10月グローバルフェスタ出展の課題、④JAFS 関東 HP 移行について。
 9月19日 JAFS 関東新 HP を公開。新 HP アドレス <http://kanto.jafs.or.jp>
 9月21日 東京の新旧2大スポットを巡る「浅草寺と東京スカイツリー チャリティウォーク」を開催。大学生のグループ、社会貢献活動に尽力してきた労働組合の方、など、ボランティアへの関心とさまざまな想いで集まった、14名が参加
 10月5日～ グローバルフェスタ JAPAN 2013 飲食ブース、展示ブースに出展(於:日比谷公園)。ブース運営参加者:14名(本会スタッフ、ボランティアの皆さん多数のご協力)。本出展でのチャリティ収益により、カチン子ども村プロジェクトへの支援目標額を達成。
 10月21日 チャリティコンサート開催準備のための実行委員会開催(於:原京さん邸)。委員3名が参加。
 11月23日 「フィリピン台風被災地支援 チャリティコンサート with オーケストラつむぐ」を開催(於:北東京生活クラブ練馬センター)。オーケストラつむぐメンバによる弦楽四重奏と岩田芳晴さんからのパンダンプロジェクトの報告。参加者:30名
 1月22日 村上事務局長をお招きし、オーケストラつむぐ演奏練習会場で、団員へのJAFS 団体紹介と懇話会(於:雑司ヶ谷地域文化創造館)。
 1月26日 2014年第1回委員会開催(於:JICA 地球広場)。参加委員5名。主な議題:①2014年度ウォークソン開催案、②11月チャリティコンサート
 の反省点と今後の対応、③3月オーケストラつむぐ演奏会への協力方法、④グループメールの移行、⑤HP でのアフェリエイト試行、⑥次年度活動スケジュールと担当案

IV. 普及啓発事業

- 1月29日 JAFS 関東 HP でアフェリエイト広告の運用を開始。
- 3月1日 オーケストラつむぐ演奏会準備のための実行委員会&夕食会（於：田中壽美子邸）。
- 3月22日 オーケストラつむぐ第二回演奏会（於：杉並公会堂）。展示ブースにて広報活動。コンサート休憩時間に本会活動の紹介PRを行う。今後のオーケストラつむぐとの関係構築にも寄与。
JAFS 委員会メンバー：8名参加

【多摩】(広住道夫)

2014年 JAFS 入会案内のチラシ設置及び広報
2月23日 (来場者 320名)
於：由木東市民センター祭りにて

3. 広報

(1) アジアネット

毎年年4回、本会海外における活動の報告を主体に掲載するだけでなく、報告ではわからない、プロジェクト中に起こった出来事などを読み物風にアレンジしたり、115号からは表紙写真と裏表紙の写真を一体化させるなど、支援者に親しまれるような内容やレイアウトに取り組んだ。

《アジアネット発行実績:各号 5,500部》

◆114号 2013年6月発行

- 巻頭言 豊かさは自分の中に
- おかげさまで！2012年度完成海外・国内プロジェクト
「水」事業、「子ども」事業、「貧困対策」事業、「環境」事業
「サイクル・エイド、ワークキャンプスタディツアー」事業
「災害被災者支援」事業、「ネットワーク・国内」事業

◆115号 2013年9月発行

- タイのエデンの国 ～複合農業に人生をかけて～
- アジアのネットワーク通信
- インドネシア・バリ ディアナプラ大学日本語教師
- チャイルドアカデミー
- 土は語る、力強く ～ベトナムホア・アン村からの便り～
- The 社会貢献 Vol.3
- 井戸ができた村
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、海外ツアー案内
- アジアの友から、編集後記

◆116号 2013年12月

- 巻頭言 20年の歳月を経て
- 農村コミュニティの力を取りもどす
- インドのミルクプロジェクト
- いのちを守る食の現在と未来
- The 社会貢献 Vol.4
- 社会経済から見たインドの発展
- インドネシア・バリ ディアナプラ大学日本語教師

- 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- 新入会員紹介、領収報告
- 里子の笑顔、海外ツアー案内
- アジアの友から、編集後記

◆117号 2014年3月

- 巻頭言 国際村おこし
- アジアの仲間とともに
- 特集 未来を創る子どもたち
- アジアのネットワーク通信
- 緊急の時を乗り越えて
～フィリピン台風被災地の現場で～
- The 社会貢献 Vol.5
- 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- 新入会員ご紹介、領収報告
- フィリピン台風30号 被災者緊急支援募金領収報告
- JAFS プラザ！コラム「アジアの街角ウォッチ」
- 世界の友から 編集後記



(2) JAFS プラザ

公益社団法人への組織変更に伴い会員向けの情報紙から、JAFSの国内活動を中心に一般市民にも理解してもらうため発行している。できるだけ、きめ細かく本会活動の息吹を伝えられるように工夫している。また、各地区のエリアの活動を紹介し、多くの市民の参加を呼びかけている。

Ⅳ. 普及啓発事業

《発行実績:各号 2,500 部》

34 号 2013 年 6 月

35 号 2013 年 9 月

36 号 2013 年 12 月

37 号 2014 年 4 月



(3) ホームページ／メールマガジン

本年度は、本会の HP ウェブ専門家に依頼し、セキュリティ対策の強化を継続して行った。今後は、HP を JAFS 全体の広報戦略のなかで会報誌などと連動させて、そのうえで、人を呼び込むことができるように計画していく。

<フェイスブック> <http://www.facebook.com/JAFS.NGO>

<メールマガジン> 合計 15 回発行

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(山崎桃、坂本由子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康をみなおすとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。

毎月1回(年間11回※8月除く)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。

昨年は、7月のぞうすいの会にて、本会のフィリピン現地提携団体のジーナ・ヤップ氏を迎えて直接現地の状況を聴く機会がで

きた。継続することの大切さをあらためて実感でき、今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

- 307 回 4 月 9 日 「フィリピン パندان町の障がい者支援」
小柳 二郎 18 名参加
- 308 回 5 月 7 日 「インド・コスモニケタン学園での教育支援」
富松 英二 12 名参加
- 309 回 6 月 4 日 「JAFS 活動の共感 CM」
青木 洋介 14 名参加
- 310 回 7 月 9 日 「フィリピン 女性たちの自立支援活動」
ジーナ ヤップ 22 名参加
- 311 回 9 月 9 日 「第 3 回アジア・ユースサミット報告」
横山 浩平 14 名参加
- 312 回 10 月 6 日 「インドでの支援活動の報告」
村上 公彦 22 名参加
- 313 回 11 月 12 日 「ウイグル スタディーツアーで見たこと」
岡本 佳子 14 名参加
- 314 回 12 月 10 日 「ネパールでミツマタ事業」
田中 久雄 17 名参加
- 315 回 1 月 7 日 「フィリピン台風災害 緊急支援活動報告」
松井 聡子 16 名参加
- 316 回 2 月 4 日 「フィリピン台風災害 復興支援活動」
青木 洋介 17 名参加
- 317 回 3 月 4 日 「ネパールの教育支援で海外ボランティア」
中塚 めぐみ 17 名参加

(2) お母さんの地球学校

(代表 小原純子)

1984 年、JAFS 主催の「地球資源を考える読書会」に参加した母親を中心に、終了後も地球規模で考え勉強しようと、「国際婦人年 10 年」の最後の年の 1985 年 5 月 12 日の母の日に発足。危機状況にある自然の現状を知り、「土」「水」「緑」「人」を軸に、地球総合環境問題について、専門の研究者の講演を聞き、時にアジア各国の「お母さん」をお招きして、自然生態系の中でのバランスの取れた人間社会のありかたを学習。自然と人間が調和していく心を地球市民レベルで見つめて、次世代に伝えたいと希望。1996 年 1 月 28 日には、同名タイトルの本『お母さんの地球学校』を発行。「お母さんの地球学校」主催の「緑のリサイクル運動」(牛乳パックの回収)は 1985 年の発足時より現在も続行中。

毎月第 1 か第 3 の木曜日午前 10 時半から 12 時半、JAFS にて開催。年齢・性別問わず受講可。

※講師の都合により一時休講中。

(3) アジア井戸ばたサロン

(代表 山崎桃)

『1990 年「WINA2000」アジア国際女性会議』への参加を機に、1992 年からアジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動をはじめた。

小さな力でも積み重ねると大きな成果を生み出すということを

IV. 普及啓発事業

合い言葉に、活動をつづけている。新しいメンバーの参加もあり、サロンはますます充実してきた。本年度も一歩一歩着実に歩み、手作り工芸品の製作など、おおいに成果をあげている。作品の種類や点数も増加し、販路を拡大してくださる方の強い協力で支援資金の確保もかなった。これからも各種イベントなどでの利用をはかしていきたい。

目的達成のために1992年4月に設立された「水がめ基金」から、本年度も、「JAFS里親の会」に例年どおり10万円を支援した。

<活動>

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
毎週火曜日午後1時～3時
・箸袋、季節のカード、香袋など
- 各種文化交流会
 - 1)5月14日
・研修会：大阪市の町並み俯瞰による市街変貌の理解
(於 レストラン「ひらまつ」)
 - 2)6月25日
・見学会：「美の響演」～関西コレクションズ～
(国立国際美術館)
 - 3)2014年2月18日
・チャリティ食事会：「アジアの子供たちのために」
(於 JAFS事務局)
 - 4)2014年3月18日
・チャリティ食事会：「アジアの子供たちのために」
(於 JAFS事務局)

(4) JAFS ハルハロ・Fランチ

(橋本末子、天野澄子)

発展途上国における子どもの教育の大切さに着目して 1992 年 10 月に発足。現在はネパール、インド、フィリピンの3ヶ所の支援をしている。主活動の「Fランチ」は2013年5月より月1回(第2金曜日)開催(2013年4月まで週2回(第2、4週))。

ゲストの講話とスタッフ手作りの料理を楽しみ、参加費 1000 円から食材費などを差し引いた差額を支援に当てている。

支援先

- ◆ラリット福祉センター (ネパール、パタン市)
両親がいない、片親である、あるいは家庭が非常に貧しいなどの理由で就学できない家庭の親子を面接して、困難な状況にある家庭の子どもを優先的に学校へ受け入れ、教科学習の他、健康チェックも行っているセンター。1988年に設立され、現在の生徒は幼稚園児～8年生まで。ハルハロは1993年以来、教師2人の給料支援を継続的に行ってきたが、前年度から主活動の「Fランチ」縮小で教師1人の給料支援となった。本年度は5月24日にラリット福祉センター代表理事デベンドラ氏が来日、JAFS訪問。ハルハロで歓迎会を持ち報告を受けた。
- ◆日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール (インド カルナータカ州)
1998年より学校支援開始。2002年より毎年JAFSアジア里親の会の里子6人の支援を継続してきたが、昨年より里子の卒業や転居、退学で3人の子どもの支援となる。2013年1月コスモニケタンスクールバス資金を寄附。2014年6月寄贈予定。

◆フィリピン・マニラ ストリートチルドレン支援

JAFS ストリートチルドレン自立支援プロジェクト。2004年12月より支援開始。マニラ国鉄線路沿いスラム街に住んでいる子ども達(約100人)のための教育支援プログラム。2008年4月からJAFSアジア里親の会の里子6人の支援開始。現在、家族はマニラから車で3時間くらいのラグナ湖のほとりのバリバランに移転。

2013年2月の生徒の学年は3年生1人、4年生2人、5年生2人、6年生1人。

活動

① 主活動「Fランチ」

毎月第2金曜日ランチタイムに、国内外からのゲストの話(生活文化、環境問題、その他)を聞き、国際協力に不可欠な異文化理解を学びながら、スタッフ手作りの昼食を楽しむ。

2013年度から「Fランチ」は月1回の活動となる。(4月のみ2回)

②9月29日(日)南大阪教会ランチサービス

④12月7日(土)大東市北条人権文化センター主催 Xmas パーティ企画

ゲスト：セサル・ティコナ氏(ペルー)

2013年度ハルハロ・Fランチ ゲスト

- ・日本語で記載(日本語でのお話)
- ・英語で記載(英語でのお話)

〈回数〉	〈日にち〉	〈ゲスト氏名 (国・所属)〉
860回	4月12日	プリティ ウェドさん(インド) 「インドの風～ムンバイ最新情報」
861回	4月26日	JAFS 海外プロジェクト フィリピン編 ・松井聡子さん(JAFS) 「バリバランの子ども達」 ・小柳次郎氏、天野澄子さん (スタディツアー参加者) 「パナイ島・自立の道を皆の力で」
862回	5月10日	モンセ マリさん(スペイン・カタルーニア) 「サンジョルディの日 ～カタルーニアの伝統祭り」
863回	6月14日	辰巳知行氏(国際協力専門家) 「平和構築支援の現場で」
864回	7月12日	セサル ティコナ氏(ペルー) 「ペルーの風景～フォルクローレにのせて」
865回	9月13日	ダリア アナビアンさん(ペルシャ文化伝道士) 「ペルシャ料理～千夜一夜のおもてなし」
866回	10月11日	ニジャットウメル氏(中国ウイグル自治区) 「浪花のオアシス ～ウイグルレストランに集う」
867回	11月8日	澤村信哉氏(House of Joy) 「楽しく運営していくために ～フィリピンの孤児院から」
868回	12月13日	「Fランチチャリティ Xmas パーティ」 フィリピン台風30号被災地復興支援寄附 ゲスト：MC＝ハイメロペス氏(チリ) マリンバ演奏＝山口公子さん シャンソン＝東啓子さん
2014年		
869回	1月11日	Mr Yuven Marc Yange (Cameroon) 「Introduction Cameroon」

IV. 普及啓発事業

870 回	2 月 14 日	～ Culture and Education」 横山浩平氏(JAFS スタッフ) 「カンボジア農村の子ども達 ～カンボジア教育支援を通して」 Mr Graham Henry (Northern Ireland) 「About Northern Ireland」
871 回	3 月 14 日	

(5) アジア国際夏期学校 (AISS)

(代表 桑田 隆弘)

小学生から大人までを対象にした海外ワークキャンプ、アジア国際夏期学校 (Asia International Summer School: AISS) の参加者が帰国後も、国内で自主活動が続いている。ワークキャンプの企画や準備をその年のワーク参加者とともにに行い、交流、支援活動を行ってきた。

(6) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 船戸康夫)

スリランカ現地提携団体である NGO「サルボダヤ」との絆を深め、サルボダヤ運動の根幹となる部門 CCBU (Community Capacity Building Unit) が行う農村開発運動への支援の輪を広げていくことを目標として活動してきた。スリランカに関するプログラム (講座や文化交流等) を企画開催し、スリランカの歴史・文化・環境・生物の多様性等を楽しみながら学んでいく内容とした。一人でも多くの方にスリランカを身近な国と感じ、日本とは異なる文化を持つこの国への理解を深めることで、サルボダヤの活動への理解・支援の輪の発展を目指す。

4 月 5 日	総会	於: JAFS 会議室
4 月 29 日	春の JAFS 住道バザー	出店 於: 大東市
5 月 25 日	寝屋川多文化フェスタ	模擬店参加 於: 寝屋川市市民会館
5 月 31 日	例会	於: JAFS 会議室
7 月 26 日	第 15 回スリランカ講座 『日本とスリランカのパートナーシップ ～国交樹立 60 周年を迎えて～』 講師: 藤井健三氏	於: JAFS 会議室
8 月 31 日	泉大津イベント	模擬店参加
9 月 1、7 日	於: 泉大津フェニックス	
10 月 14 日	秋の JAFS 住道バザー	出店 於: 大東市
11 月 30 日	京都チャリティパーティ	於: 京都市国際交流会館 『東洋の真珠 スリランカの魅力 ～スリランカの人々の暮らしと文化～』参加
1 月 18 日	例会	於: JAFS 会議室
2 月 1、2 日	ワンワールドフェスティバル	模擬店加 於: 大阪市国際交流センター
3 月 2 日	第 16 回スリランカ講座『スリランカ料理教室』 講師: ワサンタ ダルマシリ氏 ラックスマン フェルナンド氏 於: クレオ大阪西	
3 月 2 日	例会	於: クレオ大阪西

(7) 日印友好学園育成会

(会長 柏木道子)

2012 年 4 月日印友好学園育成会として、コスモニケタン学園、パダトラ小学校を含む理事会が発足

1. 育成会世話人人事
日印友好学園育成会の組織上の世話人として、代表及び各学校運営のための総括幹事を以下の如く選任した (任期 2 年)
2014 年 3 月を持ってコスモニケタンの運営資金全額、送金の形態は終了。運営資金終了と共に日印友好学園育成会は解散となった。
2. 育成会理事会開催 (5 回開催)
2013/4/12, 9/28 2014/3/19, 4/28

(8) JAFS ネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩、書記 一瀬由起子)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFS のネパールでの活動の支援を目的とする。

活動のテーマは、「ネパールの子どものための支援」。2003 年度より、冬季ワークキャンプ (バイオガス建設ワークキャンプ) の自主計画を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月 1 回 (第 2 土曜日 17 時～) 例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

ネパールに対する継続支援として里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施。今年度の支援してはチュニケル村ナウリンセカンダリースクール 3 階増設の 1 教室寄贈、現地小学生の環境セミナーの支援を行った。

ワークキャンプにて栄養指導のプログラムを導入するための教材を手作りで作成した。

今年度は、アジアユースサミットが開催され、ネパールより参加者 2 名が来日したことを受け、AYS への積極的なボランティア参加と、その後の滞在フォロー、歓迎交流会を実施し、ネパールでしか会うことが出来ない現地メンバーとの懇親をはかった。

4 月 6 日	例会・花見
5 月 11 日	例会
5 月 24 日	寝屋川多文化フェスティバル準備
5 月 25 日	寝屋川多文化フェスティバル出店
6 月 1 日	例会
7 月 13 日	例会
8 月 1 日	例会・暑気払い会
8 月 23 日	枚方まつり準備
8 月 24 日	枚方まつり出店
8 月 27 日	ネパールプロジェクト報告会 & AYS 参加者交流会 (30) 於: カトマンズ ドウイ
8 月 31 日	泉大津参加 (長、中塚氏) (渡辺氏送迎のみ)
9 月 7 日	泉大津参加 (西浦、河合、渡辺氏)
9 月 14～15 日	例会・懇親会 (宇治野外活動センター泊)
10 月 4 日	枚方多文化フェスティバル準備
10 月 5 日	枚方多文化フェスティバル出店
11 月 2 日	東大阪多国際フェスタ準備

IV. 普及啓発事業

11月3日	東大阪多国際フェスタ出店
11月	松原ワールドフェスタ参加出店
11月16日	例会
11月24日	グリーンベイ大阪イベントにて食事提供協力
12月14日	例会・忘年会
1月11日	例会・新年会
2月8日	例会
2月22日	寝屋川パルーンフェスタ準備
2月23日	寝屋川パルーンフェスタ出店
3月1日	例会
3月8日	栄養プログラム教材作成
随時	栄養プログラム教材作成

(9) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。

飲食店出店や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。

4月29日	春のJAFSチャリティバザール参加 於:住道駅前デッキ
8月30日、 9月1、7日	泉大津イベント 模擬店参加 於:泉大津フェニックス
10月14日	秋のJAFSチャリティバザール参加 於:住道駅前デッキ
12月21日	JAFS THE PARTY 模擬店参加 於:細野ビルデング
2月1、2日	ワン・ワールド・フェスティバル 民族料理模擬店出店参加 於:大阪市国際交流センター

各イベント前にはミーティングを行い、協力体制を構築している。

(10) JAFSビジネス交流会

(代表 茶谷良明)

ビジネスや、チャリティ企画参加を通じて、本会の支援活動に貢献することをモットーに楽しく活動中です。

<チャリティイベント参加>

2013年4月29日	JAFSチャリティバザール参加
2013年10月14日	JAFSチャリティバザール参加

<定例会実施>

日時:	奇数月の第3水曜日 18:30～
場所:	いきいきエイジングセンター(大阪市北区)

(11) JAFSダーナークラブ

(代表 小柳二郎)

このクラブは官民各分野の第一線を退いた方々がより多い“第2の人生”を送れるように、また、現役時代に培った知識・経験を生かして、楽しみながら活動できるようにとの願いで、2005年に発足。英語の donor (篤志家)、donation (寄付) や日本語の「檀那」などの語源である古代インドのサンスクリット語「ダーナ」*dhāna*(贈物)をもとに、村上周長の命名によるものです。

<主体活動>

- ・例会の開催 (毎月第2金曜日)
- ・ネパールの里子支援
- ・山椒収穫(京都府美山)のボランティア(6月)
- ・フィリピン パンダン市 障がい者複合施設建設費 寄贈

<共催・支援活動>

4月29日	JAFSチャリティバザール
10月14日	設営・販売など支援
4月17日	肥後橋・土佐堀かわいクリーンUP作戦
5月22日	
8月8日	土と水と緑の学校 参加・運営協力
～8月13日	
12月1日	第1回ぞうすいの会(南あわじ市)
2014年	ワンワールドフェスティバル支援
2月1日2日	

(12) JAFSオアシス会(中国教育医療支援会)

(代表 青木美千代)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力と連帯”の輪を拡げるというJAFS基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

6月4日	チャリティプログラム相談会	於:ムカーム
6月29日	チャリティショー 『シルクロードからのウイグル音楽・舞踊』 於:ムカーム	
7月15日	京都チャリティ公演 『二大文明の共演 ～インド古典舞踊とシルクロード音楽の出会い～』協力	於:ウイングス京都
8月1日	アジア家庭料理教室～ウイグル編～協力	
9月20日 ～27日	第5回中国新疆ウイグル自治区スタディツアー参加(教育・医療支援 協力) 於:ウルムチ、トルファン、カシュガル他	
10月26日	ウイグルスタディツアー報告書相談会 於:JAFS会議室	
11月12日	ぞうすいの会 ウイグルスタディツアー報告(ビデオ上映)	於:JAFS事務局
12月12日	JASSO 留学生国際交流フェス参加	

Ⅳ. 普及啓発事業

於:大阪国際交流センター
2月12日 チャリティショー 於:ムカーム
『シルクロードからの音楽と舞踊』

(13) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。

2013年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに通う、フィリピンスタッフ1名、バングラデシュスタッフ1名の奨学金を支援した。

(14) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、8月及び12月末実施)における子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

(15) ネパール地域医療支援会

(担当理事:小原純子副会長/大谷タカ子理事/吉田暢子理事)

ネパールの地域医療向上及び母子保健向上の支援活動を行ってきたスクテ支援会とチョータラ支援会を統合。ネパール農村エリアの医療向上プロジェクトをサポートする支援会。

ネパールの助産師ビマラさんを中心にした現地の医療状況改善に寄与するプロジェクトとして、今年度も引き続きヘルスキャンプ(臨時移動診療)を実施する費用の一部の支援を行った。この支援費収集法として、支援金募集以外にブルトツプ回収を行った。

また、現状を理解するために6月にスタディーツアーを実施し、現地状況把握をすると共に、助産師になるため勉強中の人たちへ講習会の実施、以前のTBAの人たちにもフォローアップセミナーを実施し、今後の支援に関して考える機会を得た。

(16) 会員親睦・交流支援会

(代表 岡田 昂)

JAFS会員の交流及び、新入会員の歓迎、会員研修・相互理解のために必要な各種企画の立案・実施を行うため、2008年5月に立ち上げた。今年度は、JAFS ウェルカムパーティーを3回(4/27、10/26、2014/1/25)開催し、延べ14名の新入会員の参加があった。今後は、さらに会員の親睦を深め、新たな輪を広げるとともに、各企画を通して積極的に関わるメンバーを増やしていくことを目的に活動を行っている。

(17) 広報活動支援会

本会は、JAFS 広報活動を支援し、主として会員以外の社会各層

への浸透を積極的に行って、イベント・催しへの参加を募り、JAFS 支援者を開拓し、JAFS の輪を大きく広げることが目的としている。

<大阪市内の公共施設を中心に案内配布一周年>

- ・ 大阪市立生涯学習センター (5カ所)
- ・ いきいきエイジングセンター
- ・ クレオ中央(天王寺)
- ・ ボランティア情報センター(天王寺)
- ・ ボランティア協会(福島)
- ・ 社会福祉指導センター
- ・ 環境館(天満橋)
- ・ ドーンセンター
- ・ 大阪国際交流センター
- ・ 西区民センター
- ・ 子ども文化センター(西区)
- ・ 中央区民センター
- ・ 関西大学・大阪市立大学・四天王寺大学 他

<うずしおフェスティバル 2013 国立淡路青少年交流の家 11/10>

(18) アジア未来塾

急速な経済発展をとげるアジアの未来をどのように作り上げていくか、専門書などを各回取り上げ、考え、理解するための会。

2013年度は、下記の日程にて実施された。

- 4月27日 第1回(第22回) 李登輝と日本精神 (12名)
- 7月27日 第2回(第23回) イスラムとコーラン (8名)
- 9月21日 第3回(第24回) コーラン1 (6名)
- 10月12日 第4回(第25回) コーラン2 (6名)
- 11月9日 第5回(第26回) コーラン3 (6名)
- 12月14日 第6回(第27回) 最近の中国事情 ~民主化の問題を巡って~ (9名)
- 1月11日 第7回(第28回) 新年放談 ~私の夢について~ (6名)
- 2月8日 第8回(第29回) 韓国の歴史について~建国から李王朝まで~ (12名)

(19) サイクル・エイド支援会

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与したり、環境にやさしい貴重な移動手段として、地域の福祉環境改善のために再生自転車を有効利用している。自転車を通じた国際交流の絆を深める目的を進めていくためにサイクル・エイド支援会を設立。様々なイベントでの広報活動や自転車を輸送するための協力を募っている。

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 中岡 健生)

事業期間 2013年4月1日~2014年3月31日

IV. 普及啓発事業

事業の内容

昨年度は、本会唯一の資産である「美山楽舎」を中心とした活動を行った。家屋購入時より懸案となっていた2階雨戸の補修を行った。雨戸は老朽化し、強風により外れ、また隙間から雨水が入り本体部分を傷めるため早急の修理が必要であった。なお、未修理箇所は沢山あるが、これにより大工事は一応完了したことになる。今後も、「美山楽舎」の有効利用を図り、地元住民との交流を通じて本会の目的である歴史的遺産や付属畑での農作業体験と自然保護・農山村の興隆を図り自然保護の大切さを啓蒙していく。

1. 保有財産活用事業

- 3月：第2回美山「土と水と緑の自然学校」
27日～30日
タイからの大学生も参加、国際交流を図り有意義な日を過ごした。
5月：美山楽舎補修と野菜苗植え
7月：夏野菜収穫&交流会 21日～22日
8月：冬野菜畑準備 25日～26日
10月：奥安堂祭り参加 28日
12月：冬野菜収穫と交流会
KANTA 理事会を美山楽舎で開催
(地元の方も参加) 14日
ハンドベル同好会スマイルベルクワイヤー美山町公民館で演奏 23日

2. 自然環境保全事業

- 所有財産である「美山楽舎」を拠点として、地元の希少植物や生物の現状を視察。会員や一般市民の方も参加、地元の方の案内で蛍の棲息地を訪ねた。
2月：美山「神谷雪まつり」参加
3月：美山音海地区「限界集落、台風災害復興作業」参加 22日
6月：紅花山芍薬視察 3日
蛍鑑賞の夕べ 23日
7月：第10回淀川しじみ獲り 7日
淀川浄化運動参加

3. 農林漁業生産支援事業

- 美山の水田を借り、地元の方の指導の下、稲作に挑戦田植えから稲刈りまで行い、収穫した。
5月～10月：田植えから収穫まで。
5月～12月：

4. 歴史環境事業

- 11月：太子町スタディウォーク 27日
2月：2堂お水取り松明竹送り参加 11日

(2) グリーンベイ OSAKA

(代表 萩尾千里)

堺第7-3区共生の森において、以下の通り、「グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)」と「第7回グリーンベイ植樹会」を開催

1. 「グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)」

日 時:5月26日(日)9時30分から13時30分まで
天 気:好天
参加人数:総勢100名

2. 「第7回グリーンベイ植樹会」

日 時:11月24日(日)9時30分から13時30分まで

天 気:好天

参加人数:総勢120名

植付面積:1,125 m²

下刈面積:3,000 m²

植樹本数:630本(14種)

植樹の苗木:

(落葉樹)ヤマザクラ、アキニレ、ムクノキ、エノキ、クヌギ、コナラ、
エゴノキ、オニグルミ
(常緑樹)クロマツ、クスノキ、ナワシログミ、ウバメガシ、アキグミ、
ネムノキ

3. 社団法人国土緑化推進機構からの助成金

当法人のグリーンベイ植樹会の「森を育てる活動」に対して、
社団法人国土緑化推進機構が助成金 1,595,000 円を受けた。

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表：萩尾千里、大阪グループ代表幹事：橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬かつ信頼される国(社会づくり)」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的の市民の会を目指している。
発足は2006年12月

<大阪グループ会員 212名>

<フォーラム活動(会員議会/政策提言)>

1. 奉仕活動(各種ボランティア活動へ参画)
2. 自己啓発活動(自己研修・鍛錬など)
3. 健康増進活動

定例会：毎月第一日曜日 午後2:00～4:00

場 所：JAFS 会議室 *移動会場

日本を良くする会

<2013年定例会>

- 4月 第51回「日本国憲法改正について その3」(9名)
7月 第52回「日本国憲法 前文について」(6名)
9月*第53回「日本国憲法 前文の修正」(6名)
於:福島区民センター
10月 第54回「日本国憲法 前文の検討」(9名)

<2014年定例会>

- 1月 第55回「憲法改正の方向付」
「日本国民意識の再建に向けて」(10名)
2月 第56回「憲法改正の要点」
「日本国民の民族意識再興の方向」(9名)
3月 第57回「憲法改正の要点」
「日本国民の民族意識再興の方向」(7名)



KANTA 野菜の収穫祭・交流会

Ⅳ. 普及啓発事業



JAFS チャリティバザール (2013 年 10 月)



京都チャリティコンサート (二大文明の共演)



アジア家庭料理教室 (イラン編)



JAFS 大阪チャリティウォーク



後期全体地区世話人会



スリランカサルボダ友の会 料理講座



第2エリア JAFS 北河内・緑とふれあう会 植林実行委員会
枚方市より環境表彰を受ける



ネパールへのかけ橋チャリティバザール

Ⅳ．普及啓発事業

Ⅳ－Ｂ．環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。本年度も引き続き、新宮市からの協力を得て、東日本大震災の被災地である宮城県名取市からの子どもたち7名が参加することができ、自然体験を通じた友情と絆を育むことができた。

2013年度は、本事業も30年目を迎え、本当に多くの方々へ愛され、サポートされながらこの事業を継続できたことが実感できた。

開催趣旨

大自然の中での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営みや自然を大切にすることを学び、次代を担う世代として、より豊かな心を持たせることを目的とします。

行事名 第30回土と水と緑の学校
実施期間 2013年8月8日(木)～13日(火)の5泊6日
(本部開設期間8月6日(火)～8月14日(水))
実施場所 和歌山県新宮市 高田地区一帯
本部:高田公民館
主催者名 新宮市
公益社団法人 アジア協会アジア友の会
財団法人 新熊野体験研修協会
協力者名 近畿労金、大阪帝塚山ライオンズクラブ
後援者名 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
和歌山県教育委員会、新宮市教育委員会
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 読売光と愛の事業団大阪支部
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

人数 参加者数(小学3年～中学3年) 79名
(大阪側25名・新宮側37名(名取市より参加7名を含む))
ジュニアリーダー数(高校生) 9名
リーダー数(大学生・社会人) 11名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数 42名
講師数 6名

土の日 栄養度の高い扶養土を山から取り、その中に住む昆虫やその他の生き物の観察や色や匂いなど色々な面から土について学習しました。
また、班ごとでクラフトや、自然体験ゲーム、川遊び、成果発表の準備などをおこないました。

水の日 水の大切さをその中に住む生物の観察を通して学びました。何十種類にも及ぶ川の生き物を採集し、それらの特性、特徴などを観察しました。また、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じました。

緑の日 緑の働きや人々のかかわりを、内賀野溪谷を歩いて知りました。道中、昨年の台風12号での被害状況を目の当たりにし、自然の驚異を学びました。ハイキングの中で、草木や熊野地方特有の植物に触れ、緑の役割を学びました。また、テントでの宿泊を体験し、かまどでの火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験しました。

海の日 海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察しました。海での磯観察では多種多様な生物に触れました。また、船でホエール・ウォッチングに出かけ、クジラの生態を学び、地域での取り組みについて考えました。特に今年は全班ともに多くのクジラやイルカが観察されました。

心の日 スライド写真を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いをはせました。自分たちと同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境などを視覚を通して学びました。

土と水と緑の学校30周年記念プログラム-

本事業が30年目を迎え、その功績を祝い、今後の発展を国際的に考えていくために本会から土水理念を継承している提携団体を迎え、下記のパネルディスカッション及び交流プログラムを実施。

第Ⅰ部「講演とシンポジウム」

開会式 主催者挨拶

- 新宮市長 田岡 実千年
- アジア協会アジア友の会理事長 田中 久雄

来賓挨拶

- 新宮市議会議長 辻本 宏氏

基調講演「日本の自然と心」

講師 表 博耀氏

(出雲観光大使・観光庁日本国エンタメ観光マイスター)

シンポジウム「グローバル時代の子どもと環境教育について」
「土と水と緑の学校30周年」に思う

【パネリスト】

Ms. ネリ レクトラ

(フィリピン パンダン女性協会会長、パンダン土水主催者)

Mr. バンジャー U. ラバン

(インドネシア 元インドネシア森林省局長)

Mr. ソラポー プクディ

(タイ 元国立ランパーンラジャパット大学地域開発学部長)

中西 洋氏

(紀州熊野応援団会員、JAFS 評議員、元新宮市職員)

【コーディネーター】

村上 公彦

(アジア協会アジア友の会 専務理事兼事務局長)

Ⅳ. 普及啓発事業

第Ⅱ部「市民国際交流パーティー」

アジア各国の美味しい料理、地元グループ出演、アジアの音楽・歌踊りなど

(2) 美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

昨年の京都大洪水により、美山も被災地となり防災教育を通じた区同士の繋がりがますます必要となる中で、本事業は都市間交流を通して、区同士をつなぐ大きな役割を持っている。

開催趣旨

「農村と都市の交流」をテーマに、単なる自然体験ではなく、農村に暮らす人々との交流を通して身近にある自然と生活のつながりなどを学ぶことで、自然を大切にすることと仲間を思いやる気持ちを育てます。

行事名 第2回 美山「土と水と緑の自然学校」
実施期間 平成26年3月27日(木)～30日(日)
実施場所 京都府南丹市美山町大内地区
主催者名 公益社団法人アジア協会アジア友の会(JAFS)
共催者名 大内地区農村都市交流実行委員
関西ナショナルトラスト協会
後援者名 京都府南丹市・南丹市美山町平屋振興会
人数 参加者数...小学3年生～中学3年生...23名
ジュニアリーダー数(高校生)...3名
リーダー数(大学生・社会人)...6名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数...約30名

内容 白尾山登山・溪流釣り体験などを通して、自然の役割や大切さを学び、災害復旧作業体験では自然との共存について考えた。地域の方とのふれあいや郷土料理など、農村と都市の交流をした。

総評: 本事業も3年目となり、美山の人たちとの交流を重ねる毎にそこにある課題も多く見えてきた。本年度はその課題に取り組むために防災を通して地域間の繋がりをより深くしていくために取り組んだ。幸運にも今回は、タイからも大学生が参加することとなり、国際色豊かな事業となり、美山の人たちにも喜ばれた。それと同時に普段から行っている防災訓練などがいかされ、美山の人たちとの交流も真のものに近づいてきたと実感している。

(3) 各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている(大阪、吹田、寝屋川・枚方)。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

(代表: 正法地 浩)

定例会議 祝日を除く毎週水曜日 19:00～21:00 及び土曜日
活動内容 年間を通して「エコキャンプ」、京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環境教育活動及び海外支援活動

活動報告

4月20日 農業体験①こなし田、畔付け(美山町大内区「大内米作りの会」協力)
5月5日 農業体験②田植え(美山町大内区「大内米作りの会」協力)
5月26日 美山町音海区クリーンデイに参加
6月15日 第30回土と水と緑の学校の研修及び宿泊研修に参加(全9回)
7月7日 農業体験③ジャガイモ他収穫(大内サロン同時開催協力)
8月8日～13日 第30回土と水と緑の学校に参加(泊6日)
9月7日 農業体験④稲刈り
11月2日～4日 第2回美山スタディキャンプ
3日 白尾山登山※一部「美山ふるさと祭り」協力
2014年2月9日
美山「神谷ふるさと雪祭り」参加、協力
3月27日～30日
第2回美山「土と水と緑の自然学校」開校
限界集落の現状から自分たちにどのような事が求められ出来るのかを検討し活動にどう取り組むかを今後の課題とします。

防災及び災害復旧活動

<2013年9月の台風18号被害の調査、復旧活動に参加>
11月15日 大内区にて流木、ガレキの撤去及び谷川にて布団カゴの設置
12月15日 大内区は場(田んぼ)被害現地調査(5名)
音海区音海川被害状況現地調査(3名)
下吉田区周辺被害状況現地調査(3名)
3月29日 大内区は場美山「土水自然学校流木、ガレキ撤去」(参加者、ボランティア、集落住民他総勢70名)

コミュニケーション能力も含め野外活動のスキルが災害時での対応や普段からの防災に活かしていけるように取り組むこと、東日本震災、和歌山県大雨被害、美山水害などの経験を伝え学ぶことが今後の環境教育、防災教育につながるものと捉えています。

国際協力活動

25年度フィリピン里子支援
アジア各国のグリーンスカウトメンバーとの交流・協力の取り組みが課題。

◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー: 長島徹、杉原貴、雨森清忠、服部博、濱野和也、早川直彦、越智久美子)

Ⅳ. 普及啓発事業

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。2013年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプ、年数回吹田市内でキャンプを行った。

http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/htmls/top.htm

<糸田川清掃→環境保全活動>

毎月一回、第一土曜日に30分ほど実施。

参加人数は平均6～8人。

実施日：4月6日、5月11日、6月1日、7月6日、8月3日、
9月7日、10月5日、11月9日、12月7日、
1月4日、2月1日、3月1日

<無人島キャンプ(ぐわすと探検隊)→環境保全の啓蒙>

6月23～24日 事前キャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

7月13～15日 本番

於：瀬戸内海の無人島「友が島」

9月14～16日 キャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

12月7～8日 クリスマスキャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

3月1～2日 春のキャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

◆国際グリーンスカウト寝屋川・枚方◆

2006年11月に結成。今年度も引き続き第2エリア植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加。行動を同じくした。

6月1日 田植え祭 参加

7月7日 御殿山神社紫陽花植樹会 参加

10月12日 稲刈り 参加

11月2日 収穫祭 参加

併せて、緑とふれあう会のメンバーとして、「みどりとふれあう農園」の作業及び実行委員会に参加。

(4) ウォーカソン

1999年の本会20周年を記念し、地球環境保全活動の一環として始まった「地球の水と緑を守ろう！ウォーカソン」も今年で13年目を迎える。また、アジア各国では青少年を中心としてグリーンスカウト運動を活発に行っており、この運動の一環としてウォーカソンも行っている。

2013年度も「生命の水」をテーマに、「地球の水と緑を守ろう！ウォーカソン・2013 (International Water & Green Day Campaign・2012)」を開催。地球環境保全の大切さや地元を歩くことで出来る国際協力ということを、広く一般市民の方にも告知し参加を求めた。参加費や寄付はアジア各国の井戸建設に使われる。

開催場所：4ヶ所

参加人数：72名 (心のウォーカソンを含む)

【東京/第10エリア】2013年5月18日 参加者24名

「寅さんの街へ行こう！葛飾柴又・帝釈天 チャリティウォーク」を開催。寅さん記念館、矢切の渡し、水元公園での自然探勝など見所満載のチャリティウォーク。お年寄りの方から小学生まで、心のウォークも加えて24名が参加。

【浅草第10エリア】2013年9月21日 参加者14名

東京の新旧2大スポットを巡る「浅草寺と東京スカイツリー チャリティウォーク」を開催。大学生のグループ、社会貢献活動に尽力してきた労働組合の方、など、ボランティアへの関心とさまざまな想いで集まった、

【寝屋川・枚方/第2エリア】2013年11月30日 参加者12名

みかん狩りウォーカソン (寝屋川・枚方共同企画) 星田駅→石の宝殿古墳→東高野街道→寝屋古墳→JAFS北河内緑とふれあう農園

【奈良/第7エリア】2014年2月11日 参加者22名

『竹送りウォーカソン in 奈良』

奈良坂→転害門→奈良県庁前→氷室神社→東大寺南大門→大仏殿前→二月堂



第30回土と水と緑の学校 授業の様子(土の日)



土と水と緑の学校30周年記念シンポジウム

IV. 普及啓発事業



美山土と水と緑の自然学校
(京都洪水被害による流木やゴミの撤去作業)



竹送りウォークソン (JAFS 奈良)



南丹市異文化交流会 (タイのメージョー大学の学生が報告)



小谷村ワークキャンプ (JAFS 関東)



葛飾柴又ウォークソン (JAFS 関東)



ワンワールドフェスティバルに出展

V. 運営管理

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第2回社員総会を下記の通り開催した。萩尾会長が所用により欠席のため、定款第16条第2項の定めにより田中理事長が議長を代行し議事を進行した。現在の社員数261名の内、出席社員数185名（内書面評決者及び評決委任者143名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時：2013年6月8日（土） 午後2時～3時30分

会 場：大阪科学技術センター 8階会議室

議 案：Ⅰ. 決議事項

第1号議案『議事録署名人の選出』の件

第2号議案『2012年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、
同附属明細書及び財産目録の承認』の件

Ⅱ. 報告事項

① 2012年度事業報告並びに同附属明細書について

② 2013年度事業計画書について

③ 2013年度収支予算書について

上記の決議事項に関しては、異議なく承認された。

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	萩尾 千里	(株) 大阪国際会議場 取締役相談役
理 事 長	田中 久雄	(株) かんぼう 代表取締役会長
副 会 長	村田 朋昌	(宗) カトリック京都司教区 参与
	小原 純子	(財) 大阪市女性協会 前理事長
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常任理事	浅野 弘	パナソニック（株）元社員
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	大麻 豊	(株) 風神企画 代表取締役
	大中 洋道	アイ・イー・ソリューション（株）取締役
	沖田 文明	(特活) 関西ナショナルトラスト協会 副代表理事
	柏木 道子	元 大阪キリスト教短期大学 学長
	古賀 旭	天神山古賀眼科 理事長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	富松 英二	元 三菱電機（株）通信機製作所 開発管理担当部長
	西川 京子	西川京子公認会計士事務所 所長
	橋本 隆	元 橋本商会 代表

V. 運営管理

常任理事	吉田 俊朗	ユニチカ（株） 監査役
	吉田 暢子	ボランティアグループ吉田組 代表
	渡邊 瑠璃子	(株) 若竹寮 監査役
理 事	熱田 親憲	元 関西国際大学 教授
	荒巻 裕	近畿大学 副学長
	池田 直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
	石川 悦治	石川会計事務所 税理士
	宇野 稔	日本基督教団 倉敷水島教会 牧師
	大谷 タカ子	大谷助産院 院長
	岡本 厚	(株) 伏尾の鮎茶屋 代表取締役社長
	川崎 壽	川崎壽法律事務所 弁護士
	桑村 壽子	天王寺英数学院 理事長
	近藤 隆	近藤病院 院長
	櫻井 紘哉	(株) OSG コーポレーション 取締役管理本部長
	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 副理事長 元駐カンボジア特命全権大使
	柴田 俊治	朝日放送（株） 特別顧問
	土屋 菊男	元 関西学院高等部 教諭
	寺西 浩章	(宗) 家原寺 住職
	渕本 療子	一般社団法人大和木育協会 副理事長
	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	山崎 弦一	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長
	湯川 剛	(株) OSG コーポレーション 代表取締役会長
監 事	笠谷 正博	人権擁護委員（法務大臣委嘱）
	柿島 裕	(株) PHP 研究所 グローバル事業部 ゼネラルマネージャー

V. 運営管理

V-C. 理事会

本会の事業・活動は、理事会、常任理事会(月例理事会)及び各常置委員会によって管理・運営されている。2013 年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

(議長:萩尾千里会長)

理事会: 5 月、9 月、2 月、3 月 (計 4 回開催)

常任理事会: 4 月、6 月、7 月、10 月、11 月、1 月、
(計 6 回開催)

原則として 8、12 月を除く毎月第 4 火曜日に実施。

V-D. 常置委員会

1. 公益目的事業Ⅰ 開発支援事業

(委員長: 富松英二理事)

- ① 水事業委員会 (吉田暢子理事)
- ② 子ども事業委員会 (富松英二理事)
- ③ 貧困対策委員会 (柏木道子理事)
- ④ 環境事業委員会 (西川京子理事)
- ⑤ サイクル・エイド委員会 (橋本隆理事)

11 月、2 月 計 2 回に各委員会合同委員会を開催。

2. 公益目的事業Ⅱ 国際交流事業

(委員長: 小原純子副会長)

I. 人材交流・育成事業

- ① 人材交流委員会 (坂口久代理事)
- ② 人材育成委員会 (吉田暢子理事)
- ③ 海外奨学金委員会 (大中洋道理事)

II. ネットワーク推進事業

- ① 国際ネットワーク組織委員会 (村上公彦専務理事)
- ② アジアフレンドシップ基金委員会 (古賀旭理事)
- ③ アジア国際ネットワークセミナー委員会 (小原純子副会)

各委員会が 4 月、5 月、6 月、7 月、10 月、12 月、2 月、に開催。

3. 公益目的事業Ⅲ 生活支援事業

(委員長: 吉田暢子理事)

公Ⅲ委員会 4 月 9、14 日、12 月 2、25 日、2014 年 1 月 10 日、3 月 14 日 計 6 回委員会を開催。

内容 ①カンボジア洪水 (2013/10 発生) フィリピン台風 30 号ハイエン (2013/11/23) に対する緊急支援、復興支援③国内に於ける災害、防災、減災活動を通した青少年育成事業 について

4. 公益目的事業Ⅳ (普及啓発事業)

(委員長: 村上公彦専務理事)

A. 地域広報活動事業

I. 本部活動

- ① チャリティ企画委員会 (大麻豊理事)
- ② 国際理解文化交流委員会 (小原純子副会長)

- ③ 会員拡大委員会 (吉田俊朗理事)
- ④ 会員研修委員会 (浅野弘理事)
- ⑤ 全国活動ネットワーク (村上専務理事)

II. 地区活動

地域啓発・活動推進委員会 (渡邊瑠璃子理事)

III. 広報活動事業

- ① 広報委員会 (古賀旭理事)
- ② アカウンタビリティ (富松英二理事)

IV. プロジェクト支援活動育成

ボランティア育成活動・会員活動委員会 (橋本隆理事)

B. 環境保全・啓発教育事業

環境教育事業委員会 (沖田文明理事)

会員活動に関する 5 委員長による第 6 回 5 委員長会議を開催 (5 月 12 日)、JAFS 広報 (特に HP 更新など) について話し合いが行われた。

5. 法人管理部門

(委員長: 村田朋昌副会長)

- ① 総務委員会 (村田朋昌副会長)
- ② 財務委員会 (上野孝一理事)
- ③ ガバナンス委員会 (富松英二理事)
- ④ 事務局管理 (村上公彦専務理事)

原則として①②共毎月開催。両委員会は関連が深いので毎回合同で開催している。

4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月 (計 11 回開催)

【事業報告の付属明細書】

2013 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上

【事業報告の附属明細書】

2013年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34 条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上